

Ⅲ 事務部門 評価実施概要

1 評価の目的

各運用単位における自主的かつ自律的な改善・改革活動を支援することを目的とする。また、2012年度に公益財団法人大学基準協会より受審した認証評価結果を受け、その指摘事項への対応状況の確認を行う。

2 評価対象

法政大学自己点検委員会規程別表（第2条関係）に定める「適用範囲及び各運用単位」

3 評価体制

大学評価委員会に、事務部会1部会を設置した。主査は大学評価委員会委員、副査は大学評価委員会規程第7条に基づき委嘱された評価員が務めた。

4 評価方法

人事部に提出された2013年度目標の達成状況および2014年度目標について評価した。評価の視点は次の通りである。

(1) 2013年度目標の達成状況

- a 目標達成に向けた努力を行なっているか。
- b 目標を達成し、質が向上しているか。

(2) 2014年度目標

- a 目標はミッション・ビジョン・各種方針と整合しているか。
- b 目標は具体的なアウトカムが明確になっており、検証可能か。

(3) 認証評価における指摘事項への対応状況

- a 2012年度認証評価結果の努力課題及び総評において指摘を受けた全学として改善が望まれる事項について、2013年度の対応状況及び2014年度目標の適切性。

5 評価経過

| | |
|----------------|----------------------------|
| 2014年5月10日 | 第1回大学評価委員会 評価計画策定 |
| 2014年5月14日 | 常務理事会 大学評価計画および評価の実施を承認 |
| 2014年7月21日～28日 | 大学評価報告書（部会案）に対する意見申し立て期間 |
| 2014年8月2日 | 第2回大学評価委員会 大学評価報告書（事務部門）承認 |
| 2014年8月4日～12日 | 大学評価報告書に対する異議申し立て期間 |
| 2014年9月3日 | 常務理事会 大学評価報告書（事務部門）了承 |

6 大学評価委員会事務部会

| | | |
|-----------|----------|-----------------|
| 大学評価委員会委員 | 牧野 大輔 | 監査室長 |
| 評価員 | 伊藤 美則 | 人事部人事課長 |
| | 立石 誠 | 学務部学部事務課長 |
| | 岡田 雅隆 | 多摩事務部総務課長 |
| | 市川 英明 | 総合情報センター市ヶ谷事務課長 |
| | ※所属は評価当時 | |

IV 事務部門 評価結果

事務部門の評価について

大学評価委員 牧野 大輔（監査室長）

人事部と大学評価室の双方に提出されていた各事務局の部課目標の提出が、人事部に一本化され2年が経過した。それにより、この目標は「業務遂行目標の明確化と、コミュニケーションツールを提供し部局内の信頼感の醸成を図る」という当初の人事部の目的に加え、認証評価機関の評価基準に基づく自己点検のためという二つの側面をもつことになり、大学評価委員会による独立した評価が加えられることになった。

事務部門としては「大学のビジョン主要項目—あるべき姿と定量的目標」に従って「事務組織の方向性を一つにし、その方向性に沿って業務の施策や適切性を検証し、業務改善や新たな施策の策定、業務の効率化を推進する」することを大きな目的として、部局ごとにセグメント別に分けて部、課別に具体的に目標を設定することになっている。

2013年度の目標とその年度末報告を基に、単純に全部局全目標項目ごとの達成度評価を集計してみたところ（達成度評価が記載されていない部局を除く）、達成度A（目標達成または達成率80%以上）が68%、B（目標を下回るまたは達成率60%以上）が23%、C（目標を大きく下回るまたは達成率65%以下）が5.9%、D（未達成または未実施）が9%であった。この結果からすると7割近くが目標をほぼ達成していることが見て取れ（未実施、未達成はほとんどない）、このことは目標設定を行った成果として大いに評価できることと思われる。

一方で、本学における最大のステークホルダーである学生の「卒業生・修了生アンケート」を見ると、いずれの項目も、満足度は3年前と比べ特に高まっているような傾向はみられない。それどころか、「学習環境支援サービス」に関して言えば、市ヶ谷キャンパス文系学部だけの平均値を比較したところ、2011年度の満足度は72.9%であったにもかかわらず、2013年度の平均値は57.5%と極端な落ち込みを示している。つまり、ほとんどの部局が目標を達成しているにもかかわらず、学生の満足度にはこれと違って影響が現れないどころか、「学習環境支援サービス」という一番事務が関与できると思われる部分で、満足度が低くなってしまっているのである。

これらが何を意味しているかは、詳細な分析がないのでわからないが、いずれにしても目標達成の評価が、ステークホルダーの満足度評価の向上に繋がるという相関関係が生まれて始めて、目標設定の意味や意義を一人ひとりが実感できるのではないだろうか。

大学のビジョンに基づく目標設定の取り組みはまだ始まったばかりである。これが目に見える形で本学の社会的評価の向上に繋がっていると全職員が実感できるまでは、まだまだ時間がかかりそうだが、法政大学長期ビジョン（HOSEI2030）の策定に向けて、「大学のビジョン主要項目—あるべき姿と定量的目標」に沿った各部局の目標を再度検討、精査し、その目標達成が本学の社会的評価の向上に大きく貢献し、全てのステークホルダーの満足度をより一層高めることができるよう、今後とも継続的な取り組みを続ける必要がある。

（ビジョン主要項目に即したものをA、主要項目のあるべき姿に貢献可能なものをB、事務組織の基本項目に貢献できるものC、部局として必要と判断したものD）

以上

V 評価結果の構成

[構成について]

事務部門の評価結果の構成については、運用単位ごとに以下の構成を基本としています。

I 2014 年度目標

運用単位ごとに設定された 2014 年度目標です。年度目標はA～Dまでのセグメントに分かれています。各セグメントの詳細は以下のとおりです。

【Aセグメント目標】

大学のビジョン主要項目の「定量的目標」に即した部課目標、およびそれらに基づいた具体的施策

【Bセグメント目標】

設定されている大学のビジョン主要項目の目標には直接関わらないが、主要項目の「あるべき姿」に貢献可能な部課目標および具体的施策

【Cセグメント目標】

大学のビジョン主要項目の実現に直接関係しないが、管理運営方針の「事務組織の基本方針」にある「ステークホルダーの満足度向上」もしくは「大学の社会的ステータス向上」に貢献できる部課目標および具体的施策

【Dセグメント目標】

AからCどれにも該当しないが、部局として必要と判断した部課目標および具体的施策

II 大学評価報告書

大学評価委員会による評価結果です。以下の（１）～（４）により構成されています。

（１）2013 年度目標の達成状況に関する所見

2013 年度目標の達成状況をプロセスと達成状況の視点から評価したものです。

（２）2014 年度目標

2014 年度目標を適切性と具体性の観点から評価したものです。

（３）認証評価における指摘事項への対応状況

2012 度公益財団法人大学基準協会の認証評価における「努力課題」及び総評において指摘を受けた「全学として改善が望まれる事項」について、2013 年度の対応状況及び 2014 年度目標の適切性と具体性の観点から評価したものです。

（４）総評

上記（１）～（４）を踏まえた総評です。

以上

総長室

I 2014年度目標

| Aセグメント目標 |
|--|
| <p>【目標1】副学長制度の導入に向けて学内の同意を得るとともに、導入に向けた整備づくりを行う。【ビジョン4（1）1）】</p> <p>【目標2】ビジョン主要項目「3キャンパスの充実」に掲げた定量的目標を達成するためにプロジェクト等を立ち上げ、実現に向けた取り組みについて検討を行う。【ビジョン4（6）1）2）】</p> <p>【目標3】2015年度までに入学センターと協働して入試ブランディングサイトの構築を図る。また、ブランディングサイトを活用し、他メディアとの連携を図るようにする（点から線への広報の転換）。【ビジョン4（1）1）】</p> <p>【目標4】2015年度までに社会全般への本学情報（特に教員・卒業生情報）の浸透を図るため新聞社などのオンラインメディアへの掲載を実行する。【ビジョン4（1）1）】</p> <p>【目標5】2013年度以降、広報の発信情報から評価となり得るデータを収集し、父母、高校教諭、受験生のイメージ向上のための効果的なメディアの選定、情報コンテンツの明確化、発信情報の量を決定し、2014・5年度以降、導き出された結果から、遡及コンテンツやメディアを限定し、情報を発信する。【ビジョン4（1）1）】</p> |
| Bセグメント目標 |
| <p>【目標1】「学徒出陣70周年：法政大学と学徒校友を考える」事業の一環として、学籍簿からデータ化した学徒出陣名簿を元に、昭和19年、20年度の在籍者に消息確認の手紙を送付して戦時下の兵役等の確認を行う。また、その結果の統計処理も行う。今年度のMV事業として予算化済の事業である。（ビジョン1-（2））</p> <p>【目標2】BT26階展示室および外濠展示室を有効に活用して、社会に有益な法政大学の情報を数多く、広く社会に発信する。</p> <ul style="list-style-type: none">・BT26階展示室では、学生の活動として、剣道部や今年創部百年を記念する野球部などにスポットを当てて、創部当時から今までのパネルを展示する。・外濠校舎では、常設展開催に加えて、清国留学生法政速成科開講110年記念にあたる今年は「特別展」を開催する。（ビジョン4-（1）-1） <p>【目標3】一口坂校舎1階を広報発信ベースとして機能させるためのしかけを検討する。</p> <p>【目標4】学生の活用により広報を行うあり方を2014年度中に検討する。</p> |
| Cセグメント目標 |
| <p>【目標1】中長期ビジョン「HOSEI2030」の作成に向けて、情報収集および資料作成等の準備を行うとともに、ロードマップを作成する。</p> <p>【目標2】中長期ビジョン「HOSEI2030」の一部を構成する「法政大学グローバルポリシー2023」を、関連部局とともに作成する。</p> <p>【目標3】人事部の目標管理制度と経理部の政策的重点事業成果報告書をもとに、ビジョン主要項目の定量的目標の進捗状況を把握し、担当理事に報告するとともに、各担当部局にフィードバックを行う。</p> <p>【目標4】理念・目的および各種方針の内容について、現状に照らして見直しを行い、必要に応じて「2015年度改訂版」を作成する。</p> <p>【目標5】継続事業としての「大学史資料集」として、年度に引き続き「歴代総長・学長の辞（五）戦後編IV」を編集する。</p> <p>【目標6】大学史センターで所蔵している資料の活字化・製本化とその前提となる調査研究を進める。</p> |
| Dセグメント目標 |
| <p>【目標1】秘書ミーティングやカイゼンシートなどを通して、秘書業務の課題を把握し必要に応じて改善をはかる。</p> <p>【目標2】秘書マニュアルの改訂版を作成する。</p> <p>【目標3】総長のスケジュール管理を正確・効率的に行うため、総長講演および原稿執筆の一覧表を作成する。</p> |

II 大学評価報告書

| 2013年度目標の達成状況に関する所見 |
|---|
| <p>業務内容が多岐にわたる部局であるため目標也多岐にわたり、目標達成状況についても目標によって大きく状況が異なるため、部全体としての総合的な評価を行うことは難しい。よって、企画業務、秘書業務、大学史業務、広報課業務と内容を4つに分類した所見としたい。</p> <p>企画業務については、目標および年度末報告の記述において具体性に欠けるところが見受けられるものの、高度な</p> |

| |
|--|
| <p>業務内容にかかわらず、全体的に業務に進捗がみられる点が評価される。</p> <p>秘書業務については、自らの達成度評価について、その評価に問題がないと判断される。</p> <p>大学史業務については、Cセグメント目標 7～9 については目標の達成が十分でないものも見受けられるが、一部は 2014 年度目標に継続されており、引き続き目標の達成に向けて努力することが望まれる。</p> <p>広報課業務については目標および達成状況の記述が曖昧であり、また、目標設定そのものに問題があったもの（Aセグメント目標 6）については評価できない。Cセグメント目標 10 については、講座開催の事実のみの記載ではなく、参加人数や講座開催による効果などについても記載が欲しい。</p> |
| <p>2014 年度目標に関する所見</p> <p>2013 年度の目標達成状況を受け、また、2014 年度の各種状況を踏まえ、適切な目標が掲げられている。ただし、Bセグメント目標 3「一口坂校舎 1 階を広報発信ベースとして機能させるためのしかけを検討する」および目標 4「学生の活用により広報を行うあり方を 2014 年度中に検討する」については、いずれも検討を行うだけの目標設定となっているため、達成指標や具体的な施策の記述が望まれる。</p> |
| <p>認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見</p> <p>ミッションが一部の学部・研究科で十分に浸透していないという指摘事項に対し、「法政大学ミッション・ビジョン戦略マップ」を作成し、大学ホームページに掲載する対応を実施したことは評価できる。しかしながら、大学ホームページ掲載により、実際に学内に浸透したのかどうか、その効果について検証が求められる。</p> |
| <p>総評</p> <p>副学長制度の導入やビジョンの設定・実現等、大学の運営に係る重要な案件を担っている部局であり、朝令暮改としない継続性のある業務遂行を期待したい。また、大学内の各現場の業務における浸透状況等について、十分な把握がなされることを期待したい。</p> |

大学評価室

I 2014 年度目標

| |
|--|
| <p>Aセグメント目標</p> <p>【目標 4】 本学における IR 機能の確立</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教学支援 IR の事例や学内他部局のデータの検証を行い、仮説設定やトライアル分析に役立つ情報を IR 委員会に提供する。【認証評価指摘事項】 2. データウェアハウス機能の構築に必要な IR データベースの設計を行うため、既存の学内システム等の現状を調査する。【認証評価指摘事項】 3. 大学の運営・経営戦略策定 IR の事例を提示し、IR 委員会にて検討を行う。【認証評価指摘事項】 4. IR 機能設置の議論の進捗状況に応じて、現大学評価支援システムの見直しを行う。【認証評価指摘事項】 |
| <p>Bセグメント目標</p> <p>【目標 1】 「内部質保証システム」「目標の達成度」を重視した PDCA サイクルにもとづく自己点検評価の主体的な実施</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学院各研究科の質保証委員会の実質化を推進する。【認証評価指摘事項対応】 2. 大学院各研究科の質保証委員会における実質的な議論を可視化、学内で情報共有し、よりよい運営体制を提案する。【認証評価指摘事項対応】 3. 教員の教育・研究活動の業績を評価する仕組みについて、研究開発センターと連携しながら現状を分析し、今後の対応について事務案を作成する。【認証評価指摘事項対応】 4. 研究所の質保証に向け、研究開発センターと連携しながら、研究所間の情報共有を事務的に促進する。 5. 他大学との相互評価のあり方について可能性を模索する。 <p>【目標 2】 次期認証評価システムを見据えた自己点検評価の実施</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公益財団法人大学基準協会の評価委員に協力するなどして、同協会の第 3 期認証評価システムに関する情報収集に努める。 <p>【目標 5】 教育研究体制の情報公開データの正確性の検証</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報公開データのうち、特に法令遵守事項に係るデータについて、主管部局等と連携をとりながら、その正確性について検証する役割を果たす。 <p>【目標 6】 付属校における自己点検評価実施支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「法政大学付属校学校評価連絡会」の事務局として、付属校の学校自己評価の確立と発展（第三者評価の導入等）に向け、支援・情報提供を行う。 |

| |
|--|
| Cセグメント目標 |
| <p>【目標 3】 公益財団法人大学基準協会からの「大学評価」指摘事項への対応</p> <p>1. 「努力課題」11件について、3年後の改善報告書提出に向け、部局の改善計画の実行を推進する。</p> <p>2. 「努力課題」以外の指摘事項について、部局に改善の検討を依頼し、外部評価者が求める大学のあるべき姿に近づけるよう推進する。</p> |
| Dセグメント目標 |
| なし |

II 大学評価報告書

| |
|---|
| 2013年度目標の達成状況に関する所見 |
| <p>年度末報告の各年度目標に対する達成度の中の一部にCまたはDの記述があるものの、多岐にわたる数多くの目標を掲げている状況であり、当初目標の難易度の高さからやむを得ない面があるものと思料する。</p> <p>全体としては概ね目標は達成されており、また目標達成に向けた努力が図られている。認証評価指摘事項についての対応状況については、達成度がほぼAとなっている点は十分に評価される。</p> |
| 2014年度目標に関する所見 |
| <p>認証評価指摘事項への対応を含め、2013年度の状況を受けた継続的な目標設定となっており、全体として適切である。なお、Cセグメント目標3「3年後の改善報告書提出に向けて」については、3年後を見据えた単年度目標であり、3年間の中における2014年度の位置づけについての記載が望まれる。</p> |
| 認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見 |
| <p>認証評価における指摘に対し、その改善に向けた目標が設定され、また、その目標は達成されており、適切である。</p> |
| 総評 |
| <p>2013年度から2014年度へと継続的な取り組みがなされていることは評価できる。これらの取り組みが、大学内の各業務の現場において有効的に活用され、実体的な質保証や業務改善等につながっていくことを期待する。</p> |

関連会社統括事務室

I 2014年度目標

| |
|--|
| Aセグメント目標 |
| なし |
| Bセグメント目標 |
| なし |
| Cセグメント目標 |
| なし |
| Dセグメント目標 |
| <p>【目標 1】 2011年度より進めている、社内システムリプレイスを更に進めていく。特に脆弱なネットワーク環境を整備する。具体的には共有サーバの階層の見直しやスペックの古いPCの順次入れ替え。同時にソフトウェアのバージョンアップを図り業務効率の向上も目指す。併せて、内部統制を更に進め、今だ整備が不十分な規程の制定を行う。</p> <p>【目標 2】 2014年度からの多摩地区総合管理協力会社変更による影響を最小限にとどめ、且つ新たな視点での総合管理を行い、品質向上につなげられるよう対応する。</p> <p>【目標 3】 学内におけるエイチ・ユーの認知度を高め、大学並びに学生、教職員にとって有益な存在となる施策を打つ。具体的にはHPのリニューアルを計画。認知度の低さから他業者へ流れていた業務の取り込みを図り、業績の向上につなげ、下記4)の原資蓄積を図る。</p> <p>【目標 4】 2013年度実施した大学からの借り入れについて、前倒し返済できるよう、月次の資金繰り及び収支見込みの精度の向上を目指す。</p> |

II 大学評価報告書

| |
|---|
| 2013年度目標の達成状況に関する所見 |
| <p>年度末報告に各年度目標に対する達成度についての記載が見受けられないものの、目標は概ね達成されている。達成度の記載については次回改善を図りたい。なお、Dセグメント目標の2) 年度末報告は「プロパー社員を事業部長</p> |

| |
|--|
| として採用」となっているが、「事業部長採用」は、年度目標「内部統制の実質化、及び営業強化により会社成長」ための手段であるため、「事業部長採用」によりそれが実現できているのかどうかの説明があることが望ましい。 |
| 2014 年度目標に関する所見 |
| 2013 年度の目標達成状況を受けて、新たな目標が掲げられており、全体として適切である。 ただし、Dセグメント目標 2「協力会社変更による影響を最小限にとどめ、且つ新たな視点での総合管理を行い」については、新たな視点での総合管理についての達成指標や具体的な施策の記述が望まれる。また、目標 3「学内におけるエイチ・ユ一の認知度」および目標 4「大学からの借入れ」について、本学にとっての関連会社の位置づけや関連会社のビジョン等と、目標設定との関わりについての記述が望まれる。 |
| 認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見 |
| 該当なし |
| 総評 |
| 本学の関連会社について、引き続き内部統制の強化と業務効率の向上が図られていることが評価できる。本学と本学関連会社の関係について、引き続き十分な健全性の維持が望まれる。 |

付属校連携室

I 2014 年度目標

| |
|--|
| Aセグメント目標 |
| 1. 組織運営体制の強化 2013 年度 1 月に設置した付属校連携室の組織的体制強化をする。これに関連して、大学・付属校間の教育連携をより効果的なものにするため施策を、高大連携企画委員会に提案する。 2. 連携事業の実施 付属校連携事業については、2013 年度に引き続きウエルカムフェスタ、2014 年度からの新規事業として付属校合同説明会を実施する。 大学・付属校間の連携を強化する事業としては、ワンデーサイエンスカレッジ（小金井キャンパス）、教育研究連携フォーラム（数学）等の事業を実施する。 |
| Bセグメント目標 |
| なし |
| Cセグメント目標 |
| なし |
| Dセグメント目標 |
| なし |

II 大学評価報告書

| |
|---|
| 2013 年度目標の達成状況に関する所見 |
| 該当なし |
| 2014 年度目標に関する所見 |
| 目標 1「付属校連携室の組織的体制強化をする」については、具体性に欠けるため、何をもって組織的体制が強化したと判断するのかについて、達成指標や具体的な施策の記述が望まれる。 目標 2 については、適切な目標であると評価できる。ウエルカムフェスタの実施等、法政中高事務室と内容的に重複する部分が見受けられるため、両者の効果的な業務連携によるシナジー効果を期待したい。 |
| 認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見 |
| 該当なし |
| 総評 |
| 必要とされる新たな業務を推進するために新設された部局であり、積極的な姿勢を期待する。2014 年度目標設定について、法政中高事務室と内容的に重複する部分が見受けられるため、総長室付付属校連携室と 3 付属校との役割分担の明確化が求められる。 |

法人本部

総務部

I 2014年度目標

| |
|--|
| Aセグメント目標 |
| なし |
| Bセグメント目標 |
| なし |
| Cセグメント目標 |
| なし |
| Dセグメント目標 |
| 【目標1】危機管理（災害対策）の取り組み (1) 危機管理体制の充実を図るため、現行の防災体制と合致していない防災関連規程の見直しを行い、規程の改正を行う。 (2) また、災害対応力の向上を図るため、3キャンパスで連携を図り、すべての構成員（学生、教職員、委託業者等）を対象にした、より広範で実践的な防災訓練を実施する。 |
| 【目標2】キャンパスセキュリティの取り組み (1) セキュリティ効果の向上のため、状況変化に応じた柔軟な対応が迅速に取れる体制（セキュリティシステム）を構築し、あらかじめ混乱が起こらないような警戒態勢を整える。 |
| 【目標3】情報管理の取り組み (1) 情報セキュリティポリシー制定に伴い、関連部局と緊密に連携を図りながら、運用体制構築に向けたロードマップを作成する。 (2) 個人情報漏えい事故防止のため、個人情報管理体制の整備を行う。「個人情報の利用目的」及び「個人情報の利用目的の提示」の見直しを行い、整備する。「個人情報登録簿」の整理を行う。 (3) 法令に基づく情報開示に止まらず、広報戦略を勘案した内容・方法による情報開示について検討し、提案を行う。 |
| 【目標4】副学長制の導入とそれに伴う現行組織・制度の検討 (1) 関連部局と連携して副学長制の導入をする。それに伴い、現行組織や制度の調整や見直しを行う。規程等の改正が必要であれば、常務理事会に提案を行う。 |
| 【目標5】規程の整備 (1) 2013年度に実施した総長候補者選挙及び大学教員理事選挙に関する中央選挙管理委員会の申し送り事項に基づき、役員選出規則を見直し、必要に応じて改正案を常務理事会に提案する。 (2) 文書作成基準の全面見直しを行い、年度中に改正原案を作成する。 |
| 【目標6】社会連携・社会貢献の取り組み【認証評価指摘事項対応】 (1) 大学全体でどのような取り組みが行われているかを把握するために、各部局での取り組みを取り纏める。 |

II 大学評価報告書

| |
|--|
| 2013年度目標の達成状況に関する所見 |
| 組織の根幹部を担う部局として、広範・多岐にわたる目標を適切に設定し、かつ、おおむね達成できたことは評価できる。とくにキャンパスセキュリティといった、大学という組織において特に重視すべき事項に関して、その体制の構築を行ったことは大いに評価したい。 社会的にも常に注視されている、個人情報の管理（Dセグメント目標3）については、今後、個人情報開示報告基準の明確化をはかる予定とのことであるが、関係部局とも連携をはかりつつ、達成に向けて速やかに対応を講じることを望みたい。 |
| 2014年度目標に関する所見 |
| 2014年度の目標設定については、具体的かつ明確になされている。また、2013年度からの継続性も担保されており、おおむね適切である。とくに危機管理、キャンパスセキュリティ、情報管理についての取り組みは、組織全体において大変重要であり、継続して目標に掲げている点は大いに評価できる。なお、Dセグメント目標1(2)「現行の防災体制と合致していない防災関連規程の改正」については、喫緊の課題でもあり、迅速な対応をぜひとも願いたい。 |

| |
|---|
| 認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見 |
| 認証評価において指摘を受けた「社会連携・社会貢献」について、2013年度目標において現状の改善に向けた目標設定がなされており、一定の成果が得られているものと読み取れるが、2014年度目標については記載内容がやや抽象的であり、より具体的な記載が必要ではないか。 |
| 総評 |
| 法人の運営という、組織の根幹に係る業務を担う総務部の課題には、広範、複雑な案件も多く、その解決は容易ではなく、多大な困難を伴うことと料される。また、単年度にとどまらない、中長期的な視野に立つての検討をも求められる課題が多々含まれていると考えるが、健全な法人運営の実現に向けて、着実に成果をあげていくよう、より一層努力されることを期待してやまない。 |

卒業生・後援会連携室

I 2014年度目標

| |
|--|
| Aセグメント目標 |
| <p>目標1.【法政オレンジCAMPUSカード】 法政オレンジキャンパスカード会員数の増加を目指す。(ビジョン(4- (3) - 1)</p> <p>目標2.【法政フェア】 法政フェアの参加者数(30代~40代)1,500名以上を実現するため、実施企画等の充実を図る。(ビジョン(4- (3) - 2)</p> <p>目標3.【後援会連携】 後援会地方支部担当の職員を定めて、地方支部活動の活性化と連携強化のために年2回以上大学職員を派遣する。(ビジョン4- (3) - 5)</p> |
| Bセグメント目標 |
| なし |
| Cセグメント目標 |
| なし |
| Dセグメント目標 |
| <p>目標1.【卒業生連携】 一般社団法人法政大学校友会の発足に伴う連携強化を図る。 このことにより、特定の都道府県を取り上げて、入学から卒業までの4年間、当該地域出身者と卒業生組織担当者との接点を持つようにする。併せて、卒業生が定期的に大学行事に参加できるような企画を検討し、結論を得る。(ビジョン4- (3) - 4、6)</p> <p>目標2.【LU募金事業】 募金事業発展のための募金制度改革および組織体制改革の構築を図る。(ビジョン4- (7) - 2)</p> |

II 大学評価報告書

| |
|--|
| 2013年度目標の達成状況に関する所見 |
| <p>年度末報告に、年度目標に対応する達成度の記載が見受けられない。また、一部の目標について、中間報告、年度末報告に進捗・達成状況の内容の記載が見受けられないケースがあるので、今後は記載を求めたい。また、Aセグメント目標2「法政フェア」の入場者数について、「1,500名を超える来場者を見込む」という目標を掲げ、「大幅に上回った」との報告記述があるが、実際の来場者数を記載することで具体的な報告とすることが望ましい。</p> <p>目標設定自体についてはおおむね適切である。とくに、保護者、卒業生という、大学と異なる組織との関係改善において「人」を重視しマンパワーを駆使した点は大いに評価できる。</p> |
| 2014年度目標に関する所見 |
| <p>2014年度目標については、2013年度の目標達成状況も勘案して設定されており適切である。また、Aセグメント目標2「法政フェア」の入場者数について、「30代~40代」という具体的なターゲットを設定したことは、評価できる。</p> <p>「一般社団法人法政大学校友会の発足」は、大学としても長年の課題であり、ようやく実現に至ったものである。主幹部局として、さらなる連携強化に向けて努力を重ねていただきたい。</p> |
| 認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見 |
| 該当なし |

| |
|---|
| 総評 |
| 大学にとって、密接な関係にある卒業生組織、父母組織と、より良好な関係を構築し連携を図っていくことはきわめて重要であるが、さらなる連携強化の実現にあたっては、数多くの課題も存在していることと史料する。一般社団法人法政大学校友会発足という大きな節目を迎えたなか、目標達成に向けて積極的に取り組んでいただきたい。 |

人事部

I 2014年度目標

| |
|---|
| Aセグメント目標 |
| なし |
| Bセグメント目標 |
| なし |
| Cセグメント目標 |
| <p>目標1 教職協働を担う職員養成のための人事諸制度づくり 大学の理念・目的である3つのミッション実現のために、職員能力の向上が求められている。とりわけ、教職協働を担う専門的知識を備えた人材の養成は急務である。このため、人事問題プロジェクト提言の具現化をはじめ、部長会議からの指示事項等を踏まえ、関連する各種事項について検討を進める。</p> <p>目標2 グローバル化を見据えた採用手法と研修体系の見直し 大学のグローバル化の推進に伴い、外国人職員等（外国の大学での学位取得および外国での職務・研修経験のある日本人を含む）の割合を増加させるとともに、一定の語学能力を持った人材の確保も必要となる。そのため、専任事務職員のみならず、事務嘱託、専門嘱託等においても、計画的な採用が必要となるが、これら条件等を整備し、次年度採用から適用する。また、研修体系についても、グローバル化に対応する内容に再構築し、次年度から実施可能となるよう諸条件を整備する。</p> <p>目標3 ダイバーシティ委員会のもと男女共同参画等を推進するための諸活動を実施 「ダイバーシティ委員会」のもと、委員会の要請に基づき、教職員の多様性を考慮し、組織のパフォーマンス向上等に資する諸課題を整理・分析する各種データ・諸資料を提供し、有効な施策を策定し実行するための諸活動を行う。</p> <p>目標4 時間外削減対応への取り組み 時間外削減には、所属員各自の意識も重要であるが、管理職の関与が重要である。そのため、時間外データを提供し、各部署の増加要因の分析と対策を検討したうえで恒常的な削減に取り組む。</p> <p>目標5 労働法等の人事関係法令への対応 労働契約法改正への取り組みをはじめ、人事関係法令各種への対応を行う。</p> |
| Dセグメント目標 |
| <p>目標1 各種規程の整備 人事部関係の諸規程について検証を行い、必要に応じた改正手続きを行う。</p> <p>目標2 円滑な業務継承のための部内研修等の実施 円滑な業務継承を目的に、人事部として必要な知識を修得するための部門別部内研修等を実施し、人材の育成を図る。</p> |

II 大学評価報告書

| |
|--|
| 2013年度目標の達成状況に関する所見 |
| <p>年度末報告に、年度目標に対応する達成度の記載が見受けられない。次回は改善を図られたい。また、多岐にわたる多くの目標を設定しているが、Cセグメント目標3「職務行動評価実施内容の見直し」の年度末報告では「未実施」と報告されている。未実施となった経緯・理由を振り返り、記載を行うことによって、今後の取り組みに向けての課題提起とすることが望まれる。</p> <p>目標自体は適切に設定されており、その成果についても具体的に記載されており評価できる。なかでも、Cセグメント目標2「時間外削減対応への取り組み」について、人員配置増を実施したことは大いに評価できる。今後も引き続き、時間外削減・適正人員配置に向けての検討が望まれる。</p> |
| 2014年度目標に関する所見 |
| 2014年度の目標設定については、本学の現状を鑑みて設定されており、全体として適切である。とくに2013年度か |

| |
|--|
| <p>らの継続案件については、2014年度中の達成を大いに期待したい。また、新たに設定された、Cセグメント目標2「グローバル化を見据えた採用手法と研修体系の見直し」については、大学のビジョンとも合致した目標設定であり、大いに評価できる。今後の検討経過を見守りたい。</p> |
| <p>認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見</p> |
| <p>該当なし</p> |
| <p>総評</p> |
| <p>部・課目標制度の主幹部局として、積極的に多岐にわたる目標設定を行い、達成に向けて努力していることは大いに評価できる。また、その記載内容も具体的である。</p> <p>人事部の目標設定自体が、そしてその達成へのプロセス自体が、教職員すべてに直接間接を問わず深く関係することになるため、目標達成への道程は容易なものではないと思われる。実施にあたっては、構成員・他部局からの意見聴取、連携をより重視つつ取り組んでいただくことが望まれる。</p> |

経理部

I 2014年度目標

| |
|--|
| <p>Aセグメント目標</p> |
| <p>【目標1】「Hosei2030」の中長期ビジョンを加味した財政検証 長期財政試算（2013決算～2030）を作成し、今後の財政運営の基盤を確立する。並行して2015年度予算編成方針へ展開し、常務理事会の最優先課題であるSGU事業計画実施経費を捻出するために、全体経費の見直しを行う。（ビジョン4-(7)-1)・3))</p> |
| <p>Bセグメント目標</p> |
| <p>【目標1】運用収入について 資金管理委員会において、今後の運用方針を議論し、決定する。運用収入については、帰属収入の1.1%以上を目標とする。（ビジョン4-(7)-3))</p> <p>【目標2】経常費補助金について 経常費補助金について、関連部局との打合せを行い、申請漏れや申請ミスを防ぐ。啓発活動として学内研修会を開催するとともに、新たな補助金申請の掘り起しを喚起する。（ビジョン4-(7)-3))</p> <p>【目標3】成果報告書の作成について 継続的にMV事業成果報告書等による効果分析を実施することにより、将来的に部局ごとの縦覧点検にも活用できる仕組みを検討する。（ビジョン4-(7)-1))</p> |
| <p>Cセグメント目標</p> |
| <p>【目標1】情報公開について 新学校法人会計基準が適用される2015年度予算書の情報公開にあたり、多様化する利害関係人への説明責任を果たせる情報公開内容とする。</p> |
| <p>Dセグメント目標</p> |
| <p>なし</p> |

II 大学評価報告書

| |
|--|
| <p>2013年度目標の達成状況に関する所見</p> |
| <p>大学の基盤を支える財務担当部局として、具体的な目標を掲げ、その実現に向けて努力していることが見て取れる。とくに目標1「中長期的な財政計画の策定の立案」について、長期財政試算を行い、厳しい財政見通しを勘案した結果、予算制度自体の変更および決定に至ったことは大いに評価できる。ただし、制度の変更に際しては、財政状況や新予算制度に関する学内周知および協力要請を行ってはいないが、全部局に関わる非常に重要な制度変更であり、非常に専門性の高い内容である。構成員に対しては、より詳細、かつ、具体的な周知・説明を行うことが望まれる。</p> |
| <p>2014年度目標に関する所見</p> |
| <p>本学の財務体質の強化に向けて、具体的な目標数値を示された達成度を適切に測定できる目標や、2013年度からの継続性も担保された目標が設定されており、全体として適切である。また、Bセグメント目標2「経常費補助金について」に記載があるように、関連部局との打合せ、研修会の実施といった経理部の目標設定、施策に対する、学内者の理解を得るための仕組み、働きかけを行っていく取り組みは大いに評価できる。ぜひ積極的に継続していただきたい。</p> |

認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見

認証評価の際に将来計画を踏まえたバランスの取れた財政運営を求められているが、その指摘に対応する目標が、目標1「中・長期的な財政計画の立案について」であるにとらえてよいか。

大学認証評価における指摘事項に対応する目標であれば、人事部の記載マニュアルに沿って、該当する目標には【認証評価指摘事項対応】と明記していただきたい。なお、同様の所見が2013年度大学評価報告書においてもなされていることを付記しておく。

総評

厳しい財政状況が続くなか、中長期的な展望を踏まえつつ財政の健全化に取り組んでいくことは、大きな困難を伴うことと思料する。この課題に主幹部局として取り組んでいる経理部の姿勢は大いに評価できるものである。同時に、経理部の目標は、すべての部局の事業運営に直接大きな影響を及ぼすものであるため、他部局との連携をより強化し、構成員の理解を得ながら、目標達成に向けて推し進んでいただくことを大いに期待したい。

環境保全本部

施設部

I 2014年度目標

| |
|--|
| Aセグメント目標 |
| 1. 55・58年館建替工事および二中高新校舎建設工事を計画通り進める。 |
| Bセグメント目標 |
| 1. 2014年度予算化工事は可能な限り費用負担を抑える。 2. 建築・修繕の予算策定方法を検討し、透明性を高める。 3. 建築・修繕工事のPDCAサイクルを回すため、竣工後の検証とフィードバックのプロセスを策定し、実施する。 4. 継続的に施設・設備の充実を図る施設計画の策定を検討する。 |
| Cセグメント目標 |
| なし |
| Dセグメント目標 |
| なし |

II 大学評価報告書

| |
|---|
| 2013年度目標の達成状況に関する所見 |
| 年度目標は着実に達成されている。 Bセグメント目標1「二中高建替工事」においては、天候不順や地中障害等に見舞われ、工期に遅れをきたしながらも、施工業者の協力を得て、総合体育棟を除き2014年度の使用開始に竣工を間に合わせたことは評価できる。ただし、天候不順、地中障害、近隣住民の要望といったような諸事情により、工程通りに工事が進まないことは多々起き得ることであるため、工事計画策定時には、より慎重に検討することが望まれる。同時に、年度末報告に記載の「竣工後の効果測定の実施」については、十分に行っていただき、今後の糧にしていきたい。 |
| 2014年度目標に関する所見 |
| 2014年度も引き続き行われる大規模工事に関する目標が設定されており、適切である。 Bセグメント目標1に、「2014年度予算化工事は可能な限り費用負担を抑える」という目標が掲げられているが、この場合の達成指標は、各工事の「予算額」あるいは「請負額」になるのだろうか。金額を目標設定に掲載することはもちろん求めないが、よりよい達成度評価の実施のために指標を明確に示し、達成度を適切に測定できるような、より具体的な目標を設定することが望まれる。また、他の目標についても、やや抽象的で具体性に欠けると思われるため、具体的な記述をお願いしたい。 |
| 認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見 |
| 該当なし |
| 総評 |
| (市ヶ谷)55・58年館校舎建替工事、(二中高)新校舎建築工事(第2期)と、大規模工事案件が継続中であり、各校地の諸建物・設備においても多くの工事が予定されている中、それらの案件に取り組む施設部の姿勢は評価できる。工事計画の策定、工程管理にあたっては、主幹部局として、正課・正課外活動への影響、学生をはじめとする利用者の利便性、安全面の確保といった面に対しても、より一層配慮されることを大いに期待したい。 |

事業室

I 2014年度目標

| |
|--|
| Aセグメント目標 |
| 【目標1】多摩キャンパスの食堂 多摩キャンパスにおける土曜日の営業について検討し、2014年度中に結論を出す。(ビジョン4-(6)-1)) |
| Bセグメント目標 |
| なし |
| Cセグメント目標 |
| なし |

| |
|---|
| Dセグメント目標 |
| <p>【目標2】 総合管理業務の安定化 委託業務の遂行に支障が発生しないか、年間を通して注視する。</p> <p>【目標3】 PCB廃棄物の処分の見通し 各校地で保管しているPCB廃棄物の、今後の処分の見通し案を作成する。</p> |

II 大学評価報告書

| |
|---|
| 2013年度目標の達成状況に関する所見 |
| <p>全体としては目標を達成したとは言い難い状況ではあるが、問題意識をもってさまざまなアプローチによる目標を設定し、目標達成に向けて真摯に取り組んできたことがうかがえる。Cセグメント目標4「総合管理委託の業務品質向上」において、事業室スタッフが限られている中、各校地の巡視、確認作業の実施に至ったことは評価できる。引き続き、達成に向けた努力を大いに期待したい。</p> <p>なお、目標設定に「～の抑制」「～の向上」「～の削減」といった記載が見受けられるが、これでは抽象的であるため、達成度の判定が容易ではない。今後は、達成度を適切に評価できるよう、より明確な目標設定を行うことが望まれる。</p> |
| 2014年度目標に関する所見 |
| <p>設定した目標・内容についてはおおむね適切であり、評価できる。目標2「総合管理業務の安定化」について、「業務委託の遂行に支障が発生しないか、年間を通じて注視する」とあるが、主旨や手法が不明瞭である。客観的にも理解や検証が容易な、具体的な目標を設定することが望まれる。</p> <p>2014年度の目標設定は3件にとどまっているが、広範な業務を担う事業室ならではの目標を積極的に設定し、積極的に取り組んでいくことを期待したい。</p> |
| 認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見 |
| <p>該当なし</p> |
| 総評 |
| <p>さまざまな角度から経費の削減に取り組んでいることは大いに評価できる。</p> <p>構成員の理解、協力なくしては達成が困難な案件も多くあり、その実現への過程は容易ではないものと思料する。廃棄物の抑制については、それを2014年度の目標に掲げている環境センターとも協力し、引き続き積極的に取り組んでいただきたい。</p> |

環境センター

I 2014年度目標

| |
|--|
| Aセグメント目標 |
| <ol style="list-style-type: none"> 紙の使用量の目標値は、12年度使用量の1%減とする。 市ヶ谷・多摩の一般廃棄物排出量を12年度と同一（以下）とする。 市ヶ谷・多摩キャンパスの特定温室効果ガスを基準排出量の8%削減する。 |
| Bセグメント目標 |
| <ol style="list-style-type: none"> 教職員・市民を対象として地球環境問題に関する公開セミナー・シンポジウムを企画・実施する。 環境展を開催または学外行事に参加 市ヶ谷キャンパス内の緑化スペースを利用した学生活動の支援 エコツアーの開催 EMS文書を整理し、環境負荷を軽減する。 |
| Cセグメント目標 |
| <ol style="list-style-type: none"> 学内の他キャンパス・付属校との交流会を企画・実施する。 他大学・諸機関との環境交流会を企画・実施する。 |
| Dセグメント目標 |
| <p>なし</p> |

II 大学評価報告書

| |
|---|
| 2013 年度目標の達成状況に関する所見 |
| <p>年度末報告に、年度目標に対応する達成度の記載が見受けられない。次回は改善を図られたい。</p> <p>Aセグメント目標5「多摩環境展の来場者数を増やす」については、動員数という定量的な目標には指標となる数値を示し、かつ年度末報告においても具体的な来場者数を記載し、目標に対する達成度合いがわかるような記載を望みたい。</p> <p>事務組織のみならず、学生・教員といった立場の異なる構成員の理解、協力を得ることが、目標達成上不可欠な部局であり、その実現は容易ではないが、多岐にわたるさまざまな目標を積極的に設定していることは評価できる。</p> |
| 2014 年度目標に関する所見 |
| <p>学内、学外の双方を対象とした、幅広い目標を掲げていることは評価できる。</p> <p>ただし、Bセグメント目標に「環境展を開催または学外行事に参加」（目標2）、「エコツアーの開催」（目標4）といった記載がみられるが、具体性に乏しい感がある。適切な達成度評価を行うために、達成度を適切に評価できるよう、明確な目標を設定することが望まれる。</p> |
| 認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見 |
| <p>該当なし</p> |
| 総評 |
| <p>大学の構成員、とくに最大構成員である学生に対して環境活動を周知し、その活動に参加させることは大変困難なことであると思料する。その状況下にあつて主幹部局として、前向きに啓蒙活動に取り組んでいる姿勢は大いに評価できる。より他部局との連携をはかりながら、構成員の環境意識の高揚に向けた取り組みの実践を期待したい。</p> |

教育支援本部

学務部

I 2014年度目標

| Aセグメント目標 |
|---|
| <p>【目標1】法政スタンダードとなる正課外教育を確立させる 学生の自律的学習活動の促進、および単位の実質化を目的として、ピア・ネット活動を中心とした正課外教育の確立と体系化を図る。(ビジョン1.-(1)-2))</p> <p>【目標2】自校教育科目の履修の全学展開および学生スタッフの育成を推進するについて 多摩・小金井キャンパス生に自校教育科目の履修可能な制度を設けるとともに、プログラムの企画・運用に携わる学生スタッフ体制を作る。(ビジョン1.-(2)-1)および2))</p> <p>【目標3】SA制度の充実と・参加者の拡大について SA学部を除き、SA参加者を増加させる為HPへの掲載等により魅力発信に努め、参加学生の能力向上に関わるアウトカムを把握する。 SA必修学部を除き、その他の学部のSA参加者が学部収容定員の1.2%となるような働きかけを教学組織および学生に対して行うとともに、SA奨学金を有効活用する。(ビジョン1.-(3)-2)-1))</p> <p>【目標4】就業力育成の体系化について 正課外企画の効果検証のためツール作り(ex.参加学生のコンピテンシー伸張を測る等)の検討を開始する。また、「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」GPに継続して取り組む。(ビジョン1.-(4)-5))</p> <p>【目標5】他学部公開科目の充実について 在学生の学習意欲に貢献する目的とともに、戦略的な入試広報に活用ならしめるため、他学部公開科目をより豊富にし、体系化して公開する。(ビジョン1.-(5)-1))</p> <p>【目標6】「環境」「持続可能性」に関わる講演会開催について 研究開発センター、総長室に協力して講演会、シンポジウム開催に関わる企画・提案を行う。</p> |
| Bセグメント目標 |
| <p>【目標7】英語学習に意欲ある学生のための学部横断的英語教育プログラムの整備について グローバル人材開発センターと協力して海外(留学、就職等)に目を向ける学生を増加させる。(ビジョン1.-(3)-1))</p> |
| Cセグメント目標 |
| <p>【目標8】教員の社会貢献および管理業務等の活動促進について 教員の資質向上を図るために、社会貢献および管理業務等の活動を促進するための取り組みを増やすための工夫(データ提供の拡大や情報共有等)や企画を実施する。(認証評価指摘事項対応)</p> <p>【目標9】外国語に関する能力修得への評価について 外国語授業や正課外の活動を通じての能力修得について、ERPの受講を勧奨するなどして、学部生の評価が向上するよう支援する。(認証評価指摘事項対応)</p> |
| Dセグメント目標 |
| <p>【目標10】学内外のステークホルダーの満足度向上について 学生・父母・受験生に限らず、学内教職員も含めたステークホルダーの満足度の向上を実現するため、課題を発見し、業務改善などを積極的に提案し、実施する組織風土を醸成する。(事務組織の基本方針関連部局必須課題)</p> |

II 大学評価報告書

2013年度目標の達成状況に関する所見

幅広い分野で「学び」を提供するための各種施策が具体的に実行されており、目標達成度合いも高く評価できる。他キャンパス、他部局との連携も一部ではなされており、部局横断的に取り組むことにより目標を達成できている。特に目標「正課外教育の拡充について」はピア・ネットを紹介する広報ツールをはじめとして、多岐にわたる取り組みが実行されているが、これらは学内外からの注目の高いため、達成度「A」ではあるものの、さらなる発展を期待したい。

また、目標「SA制度・参加者の拡大について」など、目標達成度を数値的に表すことが可能なものに関しては、過去からの推移を含めた数値情報を積極的に公開して客観的な評価につなげることを期待したい。

| |
|--|
| 2014 年度目標に関する所見 |
| 2013 年度の目標達成状況を受けて、未達成のものを再度 2014 年度目標として掲げているほか、達成した目標も新たに実施すべき課題を追加、発展させて再度目標設定しており、適切である。今後は新規目標を更に充実させていくことを期待したい。 |
| 認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見 |
| 該当なし |
| 総評 |
| 多くの学部を抱え業務内容が多岐にわたるなか、実施状況、目標設定のいずれも積極的なものであり評価できる。他部局や教員との連携が必要な課題も多く難題もあるだろうが、引き続き目標達成に向けて取り組んでいくことを期待する。 |

入学センター

I 2014 年度目標

| |
|--|
| A セグメント目標 |
| <p>【目標 1】2015 年度入試（一般・センター利用）の志願者数について 3 年連続増加の 96,000 人を目指す。また合格者査定方法の検証を行い、適切な入学者を確保できる仕組みを実現し、合格者の手続率をアップさせる方策を実施する。（ビジョン 4 - (7) - 5))</p> <p>【目標 2】留学生入試において、新設する渡日前入試を確実に実施し、志願者数 600 名を達成する。（ビジョン 1 - (3) - 4))</p> <p>【目標 3】昨年試行的に設置した広報戦略会議を引き続き設置し、総長室広報課との連携により、戦略的な情報共有に努め、学生の活用による広報活動、新たに建設している一口坂校舎 1 階の広報発信ベースを含み、2015 年度に向け本学のブランディングサイト構築を目指すとともに、情報発信力を強化する。（ビジョン 4 - (1) - 3) 6) 7))</p> |
| B セグメント目標 |
| <p>【目標 1】入学試験実施に関わる事故解消に向け、出題関係、印刷関係、委託関係、一般入試で新設する Web 出願システムの完全実施、入試当日の危機管理（不正行為、地震・自然災害対応等）などの業務を再点検し、安全かつ確実な入学試験を実施する。（ビジョン 4 - (7) - 5))</p> |
| C セグメント目標 |
| なし |
| D セグメント目標 |
| <p>【目標 1】入学センター全体の業務遂行のため、共通認識として以下の項目を掲げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「思い込み」を取り除いた確実な業務遂行とカイゼンマインドを持つ思考力 2. 学内規程に則った業務運営と業務マネジメントとしての「報告・連絡・相談」のさらなる徹底を目指す。 3. 個人に業務過多が生じないように、みんなが互いの業務を理解し、協力し合う体制を作り上げる。 |

II 大学評価報告書

| |
|---|
| 2013 年度目標の達成状況に関する所見 |
| <p>目標「2014 年度入試の志願者数 98,000 人を達成するとともに、2015 年度以降 100,000 人台実現のための体制を確立する。また、適切な入学者数を確保する。」では、T 日程入試併願制導入による入試制度改革を行いつつ、DM の増強やアドミッションセンターの拡充など様々な具体的施策の実行により志願者数拡大に努めていて評価できる。98,000 人という目標は達成することはできなかったが、「あるべき姿」の定量的目標、「志願者数 9 万人台を確保」は達成できてはいる。更なる広報活動や制度改革を期待したい。また、入学手続きについては、3 年ぶりに予算定員を確保することができており、こちらも大いに評価したい。目標「入学試験実施に関わる現状スキームの見直しを行い、新しい入試制度とともに安全・確実な入学試験を実施する。」では、重大な事故につながりかねない事例が生じているとある。重大事故が発生した場合の影響度合いは図りしれないものがあるため、原因を分析し改善に努めていただきたい。</p> |
| 2014 年度目標に関する所見 |
| <p>2013 年度未達成であったものをあらためて 2014 年度目標として設定している。「あるべき姿」の定量的目標に定められているブランディングサイトの構築や志願者数 9 万人確保についても遺漏することなく目標が設定されていて、全体として適切と評価できる。特に広報戦略として一口坂校舎 1 階の有効活用による情報発信力強化に期待したい。2013 年度に発生した入学試験における「重大な事故につながりかねない事例」については改善策を構築し具体的な目</p> |

| |
|---|
| 標の設定を行うべきである。 |
| 認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見 |
| 該当なし |
| 総評 |
| 「志願者数増加」と「安全確実な入試の実施」という目標のほか、日常業務改善も目標管理されていて評価できる。また、可能な限り数値目標も設定されているため、達成度合いの検証も客観的に行うことができる。志願者数増加は質の面からも財政上の面からも影響が大きく、また入試事故は大学の社会的評価低下にもつながるため、引き続き目標の達成に努めていただきたい。 |

多摩事務部

I 2014 年度目標

| |
|---|
| Aセグメント目標 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・路線バス通学に関する学生マナーの向上に努める。 ・路線バスの混雑緩和のため、日ごと時間ごとの乗車数を把握するべく、データを整備し改善に努める。[ビジョン 4－(6)－1] |
| Bセグメント目標 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・「多摩地域交流センター」を核に、近隣地域との連携上の諸課題を探り、交流・連携活動の促進に努める。[ビジョン 3－(3)－1] ・大学全体の、地域連携の取り組みを全体として把握するため、多摩キャンパスの取り組み状況を総務部庶務課へ報告する。【認証評価指摘事項対応】[ビジョン 3－(3)－1] |
| Cセグメント目標 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・防火・防災要項、計画を策定し、各学部教職員、学生、関連部局と連携をとり、防火・防災訓練活動に努める。 ・障がい学生への学習支援について、一般学生への啓蒙を図り、サポート要員の確保に努める。 ・障がい学生向けの施設・備品面の充実を図る。 |
| Dセグメント目標 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・各事務課の窓口業務サービスの向上に努める。 ・各事務課の専任職員の年間総時間外業務時間の削減に努める。 |

II 大学評価報告書

| |
|--|
| 2013 年度目標の達成状況に関する所見 |
| <p>各目標について達成状況もよく、また達成に向けた取り組みも何れも全体的に評価できる。</p> <p>目標「各学部の専任職員の年間総時間外業務の削減に努める。」では、時間外勤務の年間削減時間がかなり改善しており、評価される。今後の更なる改善に役立てるため、削減できた要因分析を行い、詳細な報告を記載することを期待したい。目標「通学に関する学生マナー向上に努める」では、バス会社や近隣住民からの苦情件数を分析し、マナー向上が実現できているか検証していただきたい。その他の目標に関しては、実施のプロセスや実績数値による詳細な検証がなされており評価できる。</p> <p>なお、必須項目である各年度目標に対する達成度の記載が見受けられない。次回は改善を図られたい。</p> |
| 2014 年度目標に関する所見 |
| <p>2013 年度の目標達成状況を受けて目標を設定しているほか、新規の目標も掲げており評価できる。時間外削減は 2013 年度大幅に改善したにも関わらず、2014 年度も再度目標としておりその積極性が伺えるが、更なる改善のためには数値目標を設定し実行していくことが望ましい。その他、全体的に具体的な施策を目標の設定に組み込んでいくべきである。また、防災関連やバス通学のマナー向上、窓口サービス向上については、2013 年度からの継続目標だが、従前と同じ内容を実施するだけでなく、新たな取り組みによる改善に努めてほしい。</p> |
| 認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見 |
| <p>認証評価における指摘に対する 2013 年度の実績については部の目標ではなく、課の目標「大学全体の、地域連携の取り組みを全体として把握するため、多摩キャンパスの取り組み状況を総務部庶務課へ報告する。」にあるだけとなっているが、そこには庶務課へ報告したとの記述はなく達成できていない。2014 年度は部目標にも明確に掲げられており、その改善を期待する。</p> |

| |
|--|
| 総評 |
| 多摩事務部における各学部事務課の課目標は各々の学部特性に基づき、かなり具体的でかつ詳細な内容で設定されている。しかしながら部目標とは必ずしも関連付けられていない。総務課の課目標とは関連性があり統一性が認められるが、他の各学部事務課の課目標とは同じ部内の目標ではなく別々のものと見てとれる。多摩事務部としてどのような目標に向かって改善すべきか、課目標と関連性、統一性をもたせることがこの目標管理制度の望ましい姿である。 |

小金井事務部

I 2014 年度目標

| |
|---|
| Aセグメント目標 |
| なし |
| Bセグメント目標 |
| 1. 理系学部の認知度向上（Bセグメント：その他：大学の発信力強化） 理系学部の志願者向上を図るべく、学部執行部と連携を図りながら、理系学部の認知度向上を目指す。 |
| Cセグメント目標 |
| 1. 決裁手続きの厳格化（Cセグメント：事務組織・行動方針4 法令順守） 昨年度同様、執行に際しては学内規程を遵守し、事前決裁手続きの徹底を図る。 |
| 2. 危機管理体制の構築（災害、危険物等）（Cセグメント：事務組織・行動方針5 危機管理能力向上） 2013 年度に作成した震災対応マニュアルを、職員不在時でも実質的に役立つようなマニュアルとして見直しを行うとともに、学生避難を伴う防災訓練（建物限定）を実施する。また、薬品の指定数量を超過している実験室について、薬品保管状況の改善を徹底する。 |
| 3. 小金井キャンパス全体の円滑な教室等の利用（Cセグメント：事務組織・基本方針1 ステークホルダーの満足度） 2013 年度末で再配置が完了したが、変更後の教室やゼミ室及び会議室等が必ずしも十分に周知されていないため、円滑な活用ができるための表示・貸出方法を改善し、教職員・学生に周知徹底する。 |
| 4. 時間外勤務の削減と業務の平準化（Cセグメント：事務組織・行動方針3 職場環境） 時間外の特定期間への偏りを排除すべく、担当業務の見直しを検討し平準化を目指す。個人に業務過多が生じないよう、互いの業務を理解し、協力しあう体制を作り上げる。 ①担当毎に「当面の課題」を作成し、業務のプライオリティーを共有する。 ②学内規程に則った業務を実施するとともに、「報告・連絡・相談」を徹底する。 |
| Dセグメント目標 |
| なし |

II 大学評価報告書

| |
|---|
| 2013 年度目標の達成状況に関する所見 |
| 各目標について達成状況もよく、また達成に向けた取り組みも何れも全体的に評価できる。 目標「理系学部の認知度向上」は新入生等の高校訪問などを実施し成果をあげているようだが、それらの実施件数や新たな施策の内容など具体的に記載があれば、実施状況や規模を把握することができ、よりよい目標管理につながる。目標「危機管理体制の構築」については、万が一の事故に備えるために必須であり継続して実施していかなければならない。訓練参加人数は想定より少なかったが、今後は建物指定での実施とのことなので、その中で参加を促し、全構成員における訓練との位置づけに発展させるよう努めていただきたい。目標「時間外の削減と業務の平準化」については、専任職員以外の職種の時間外が増加傾向にあるので、健康管理の面からも削減するよう努めていただきたい。 |
| 2014 年度目標に関する所見 |
| 2013 年度の目標達成状況を受けて、あらためて 2014 年度目標を掲げており、全体として適切である。東京都の毒物・劇物立入検査で受けた改善事項に対する改善策を目標「危機管理体制の構築」に具体的に設定しておくべきである。また管理が困難な専任職員以外の職種の時間外増加傾向に対する改善策についても、目標「時間外削減と業務の平準化」に具体的に設定しておくべきである。今年度改善に努めていただきたい。 |
| 認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見 |
| 認証評価における「社会連携・社会貢献」に対する指摘についての目標は、2013 年度及び 2014 年度の部目標、課目標のいずれにも掲げられていない。関係部局である総務部及び多摩事務部では目標として設定されており、小金井事 |

| |
|--|
| <p>務部においても目標を具体的に設定し、関係部局と連携を図り指摘に対し改善するよう努めていただきたい。</p> |
| <p>総評</p> <p>2013年度末報告も2014年度目標設定も各々詳細に記載されており評価できる。達成度が「B」のものも多いが、その理由は、目標「理系学部認知度向上」や「防災体制の構築」、「時間外の削減と業務の平準化」など単年度の実施のみですぐに効果が得られるものではなく、今後の継続が必要なためと考えられる。更なる改善に向けて取り組んでいただきたい。特に防災体制の構築においては、理系学部ならではのリスクに対し災害を抑制できるよう、引き続き教職協同で努めていただきたい。</p> |

大学院事務部

I 2014年度目標

| |
|---|
| <p>Aセグメント目標</p> <p>【目標1】定員充足率について 定員充足率100%を目指し、広報活動の見直し、外国人留学生の積極的受け入れ、入試方法の改革等、様々な施策を検討実施する。(ビジョン2.-(2)-3)</p> <p>【目標2】大学院生に対する就職支援体制の具体化について 修士課程、博士後期課程院生の就職支援体制および具体策につきタスクフォース会議等で検討する(まずは学生の具体的ニーズ把握につとめる)。(ビジョン2.-(2)-4)</p> <p>【目標3】コースワーク(組織的教育指導体制)の充実について 大学院のコースワーク導入に対応すべく、現状把握、今後の道筋の設定等の検討をすすめる。(ビジョン2.-(2)-2)</p> <p>【目標4】司法試験合格者数の増加策について 司法試験合格者40名を目指し、合格者の増加策について検討する。(ビジョン1.-(4)-1)</p> |
| <p>Bセグメント目標</p> <p>【目標5】新設研究科等の履行状況把握と課題解決等について 昨年度新設のキャリアデザイン学研究科の履行状況把握と履行状況調査結果で留意事項が付された公共政策研究科公共政策学専攻博士後期課程の課題解決を行う。(ビジョン2.-(2)-あるべき姿)</p> <p>【目標6】連帯社会インスティテュートおよびスポーツ健康学研究科(仮称)の設置準備について 2015年度開設予定の連帯社会インスティテュートおよび2016年度開設予定のスポーツ健康学研究科(仮称)の設置準備を進める。(ビジョン2.-(2)-あるべき姿)</p> <p>【目標7】優秀な大学院生の確保と優秀な研究者の輩出について 大学院教育の充実や様々な制度等を活用して、優秀な大学院生を確保するとともに、優秀な研究者を多数輩出する。(ビジョン2.-(2)-あるべき姿)</p> <p>【目標8】社会人大学院生の増加について 社会人大学院生を増加させるために、環境整備を図るとともに諸施策を企図・実現する。(ビジョン4.-(4)-1)</p> |
| <p>Cセグメント目標</p> <p>【目標9】外国語の能力修得に対する評価向上について 授業等を通じた外国語の能力修得に対する評価が低い原因を検証・改善し、修了生の満足度を高める。(認証評価指摘事項への対応)</p> <p>【目標10】博士後期課程院生に対する経済的支援策について 博士後期課程の院生に対する奨学金の充実等さらなる経済的支援策の可能性を探り、その導入につき関係部署へ働きかける。(認証評価指摘事項への対応)</p> <p>【目標11】学生、教職員等のステークホルダーに対するサービス向上と大学のステータス向上について 学生、父母、教職員等のステークホルダーに対するサービス向上を図るとともに、大学のステータス向上に資する活動を展開する。(事務組織の基本方針への対応)</p> |
| <p>Dセグメント目標</p> <p>【目標12】情報の共有化、時間外の削減、その他課外講座の実施体制の整備等について 各課・担当における情報の共有化や時間外の削減、その他課外講座等の実施や修了生への支援体制等を整備する。(部局として必要とする目標)</p> |

II 大学評価報告書

| |
|--|
| 2013 年度目標の達成状況に関する所見 |
| 各目標についてその一部に達成できていない部分もあるが、着実に達成に向けて努力していることがうかがえ適切と評価する。 目標「定員充足率 100%を目指し、様々な施策を検討実施する。」は、研究科大学院において文系で志願者数が増加したものの入学者までに結びつけず、「あるべき姿」の定量的目標「定員充足率について現状の 94%から 100%に近づける」ともかい離する結果となった。しかしながら結果は別として、具体的な取り組みを積極的に実施したことは評価できる。一方、同じ目標で専門職大学院については、法務専攻、イノベーション・マネジメント専攻共に具体的な取り組みの記述が少なく、実施内容の詳細を知ることができないため記載内容の改善を求めたい。その他、Aセグメントの目標はすべて達成状況が「B」であり、一部課題が先送りされるなど十分な目標達成状況とはいえないため、より着実な取り組みを期待したい。 |
| 2014 年度目標に関する所見 |
| 2013 年度の目標達成状況を考慮しており、またビジョン主要項目のあるべき姿と定量的目標に即して、全体として適切である。過去から取り組んでいる目標「定員充足率 100%を目指す」は、入学者の質を保ったまま向上させていくことが目標達成に向けての課題であり、難しい面もあるだろうが、引き続き改善に向けて取り組んでいただきたい。 |
| 認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見 |
| 認証評価指摘事項への対応について、2013 年度実績は、目標「博士後期課程院生(ポスドク含む)に対する新たな経済支援策をタスクフォース会議等で検討する。」で検討は行っているものの改善には至っていない。また、もう一つの認証評価指摘事項の「外国語の能力習得」に関しては、2013 年度の目標設定がなく達成状況を検証することができない。2014 年度は部目標に掲げられており、その改善を期待する。 |
| 総評 |
| 目標の設定について、すぐに解決できないものもありその達成度の評価が厳しくなることが避けられない中、着実に達成に向けて課題に取り組んでいる点は評価できる。大学院という高度な教育研究の場で、新たな研究科等の準備を行いながらその他の課題解決や目標の達成に努めていくことは容易ではないが、今後も定員充足率向上など成果を期待したい。 |

通信教育部事務部

I 2014 年度目標

| |
|---|
| Aセグメント目標 |
| 【目標 1】 入学者の増加 通信教育部全体として取り組む在籍者 8,000 名のため、法政大学通信教育部の魅力が入学志願者に効果的に伝わることを図り、年間 1 千名以上の入学者数の確保を目指す。 入学者増加対策チーム (Target8000) の運営を変更し、コンサルタントのアドバイスの実施検討を行い、さらに自主的な施策の提案・検討・実施を業務内容とする。これに伴い、対策実施を決定する明確な部内手続きを構築する。(ビジョン 4-(4)-1)2) |
| 【目標 2】 離籍者の減少 新たに離籍者減少対策チームを結成し、離籍者数を昨年度入学者の 10%以下 (過去 10 年間の平均: 对在籍者数比 18%) を目標に、施策の提案・検討・実施を行い、学生の学習活動に対するモチベーションの維持・向上を図り、離籍率の減少を目指す。(ビジョン 4-(4)-1)2) |
| 【目標 3】 メディア授業の拡充 2013 年度から始まった通信教育部改革の主要項目であるメディア授業の拡充については、2018 年度までの目標である 70 科目程度の開講に向け、順次作業を進める。年次計画の通り、学部にコンテンツ作成・5 年経過した授業の撮り直しを実施するよう働きかける。 また、タブレット型パソコンでの受講が可能となるシステムの運用を開始し、過去のコンテンツを現システムに適応するよう撮り直しを推進する。(ビジョン 4-(4)-1)2) |
| 【目標 4】 通教改革の円滑な実施と検証 2013 年度から始まった通信教育部改革の各種検証作業を行うとともに、必要に応じて、学籍や入学者数関係資料を通信教育学務委員会等へ提供することで補正を促進する。 |

| |
|---|
| <p>カリキュラム変更に伴う経過措置が終了するため、学生への周知を徹底し、新カリキュラムへの円滑な移行を行う。通信科目だけでなく、スクーリング科目のシラバスを作成し、Web上に公開する。(ビジョン4-(4)-1)2))</p> <p>【目標5】 通教事務システムの安定的稼働</p> <p>2013年4月にリプレースした通信教育部事務システムの安定稼働を目指し、改修については内容を吟味し、効率的な改修予算運用を実施する。</p> <p>各担当が独立して運用しているシステムの複数担当者による運用および、各担当者の習熟度を上げ、マニュアルを整備する。(ビジョン4-(4)-1)2))</p> <p>【目標6】 通信教育課程の各種データ整備</p> <p>(1) 通教ポートフォリオの更新</p> <p>昨年度策定した、分析すべき各種データ(名称:通教ポートフォリオ)を確実に更新する。</p> <p>データの内容は継続的に分析し、通信教育部改革の検証の材料として通信教育学務委員会に提示する。更に、必要に応じて改善策を策定し、同委員会に提案する。</p> <p>今後の当部業務における公式な根拠資料は全て通教ポートフォリオに属するものとするよう努める。</p> <p>(2) 部内研修の実施</p> <p>通信教育課程の制度上の理解を深めるために、大学通信教育設置基準をはじめ、各法令等の研修会を実施し部内研鑽を行う。部内研修等を通じて通信教育課程の制度上の理解を深めるために、大学通信教育設置基準や各種法令等を学習していく。(ビジョン4-(4)-1)2))</p> |
| <p>Bセグメント目標</p> <p>【目標7】 補助金申請に関わる各種改革の実施</p> <p>近年、補助金申請要件として通信教育課程に通学課程と同等の教育・研究環境が求められているため、それに対応した改革を実施し、同時に在学生向けのサービス向上を図る。</p> <p>具体的には「大学教育再生加速プログラム」の申請要件の項目に取り組む。</p> |
| <p>Cセグメント目標</p> <p>なし</p> |
| <p>Dセグメント目標</p> <p>なし</p> |

II 大学評価報告書

| |
|--|
| <p>2013年度目標の達成状況に関する所見</p> <p>各目標に対し概ね達成できており、また達成に向けた努力もうかがえ、高く評価できる。特に目標「入学者の増加」では、7年ぶりに入学者数が1,000名を上回ったことは各種取り組みの成果である。具体的には広報活動を業務委託化しその専門性に基づいてリスティング広告やSEO対策などを実施したことが入学者増に結びついたと考えられる。また、目標「通信教育課程の各種データ整備」では体系化したデータを有効利用しはじめている。今後の通信教育部の方向性を定めるときにこのデータが役立つことを期待したい。</p> <p>なお、目標3の年度末報告の記載もないため、実施状況は課目標から判断した。また中間報告には達成度が記載されているが年度末報告には見受けられない。次回は改善を図られたい。</p> |
| <p>2014年度目標に関する所見</p> <p>2013年度の目標達成状況を受けて、あらためて2014年度目標を掲げており、全体として適切である。数値目標や達成に向けてのプロセスの記述があるため、実施状況の検証も行いやすいものになっている。蓄積を継続している「通教ポートフォリオ」については、昨年度以上にその分析、有効利用を促進することを期待したい。</p> |
| <p>認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見</p> <p>該当なし</p> |
| <p>総評</p> <p>当該部局の目標設定は入学者数増の実現などビジョン主要項目のあるべき姿と定量的目標を目指した内容を中心に充実したものとなっている。また、タブレット型パソコンでの受講など積極的に新規の取り組みを目標に掲げている。その中で2013年度に実施したリスティング広告やSEO対策については、そのノウハウを広報活動が必要とされる他部局の戦略に役立てていけると考えられるため、有効利用できる仕組みづくりが部局横断的に実施できるとよい。今後より積極的な取り組みを期待したい。</p> |

中学高等学校事務室

I 2014 年度目標

| Aセグメント目標 |
|--|
| 【目標 1】法政中高の志願者合計について、毎年延べ 1,700 名以上を目指す。(ビジョン 4. -(5)-2) (2014 年度入試実績：中学 1,184 名、高校一般 349 名、高校推薦 85 名、合計 1,618 名) |
| 【目標 2】新入生および卒業する生徒に対するアンケート調査を実施し、よりよい学校づくり、教育活動の改善に役立てる。(ビジョン 4. -(5)-3) MV 直結事業) |
| 【目標 3】本校生徒の法政大学進学後および大学卒業後の状況を資料化する。(ビジョン 4. -(5)-5) |
| 【目標 4】ウエルカムフェスタの成功、付属校合同説明会の実施等、大学と付属校の連携強化を進める。(ビジョン 4. -(5)-6) |
| Bセグメント目標 |
| なし |
| Cセグメント目標 |
| 【目標 1】法政中高の財政状況が赤字から黒字へと転ずるよう、コスト削減と収入増を図る。 (付替後の資金収支差額：2011 年度決算：△1 億 180 万円、2012 年度決算：△4,500 万円) |
| 【目標 2】危機管理体制の整備および情報セキュリティ対策の策定 |
| Dセグメント目標 |
| なし |

II 大学評価報告書

| 2013 年度目標の達成状況に関する所見 |
|---|
| 全体としては達成度が十分である記述とはなっていないが、難易度の高い目標設定であるため、やむを得ない面があると判断する。目標達成に向けた努力が図られている点について評価したい。 なお、Cセグメント目標 1「法政中高の財政状況が赤字から黒字へと転ずるよう、コスト削減と収入増を図る」について、コスト削減については 3 点の達成状況の記載があるものの、収入増に対する達成状況の記述がない。しかしながら、Aセグメント目標 1「法政中高の志願者合計について、毎年延べ 1,600 名以上を目指す」について、「合計 1,618 名 (153 名増)」と志願者増の目標が達成されているため、この目標達成と関連した収入増についての記載が可能ではないか。 |
| 2014 年度目標に関する所見 |
| 2013 年度の目標達成状況を受けた継続的な目標設定となっており、全体として適切である。2013 年 11 月に設置された総長室付付属校連携室の 2014 年度目標と内容的な重複が見られるが、両者の効果的な業務連携によるシナジー効果を期待したい。なお、Aセグメント目標 1「法政中高の志願者合計について、毎年延べ 1,700 名以上を目指す」について、2014 年度の単年度の志願者数を目標としているのか、今後毎年達成する体制の構築を目標としているのか、明確にされたい。 |
| 認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見 |
| 該当なし |
| 総評 |
| 法政中高の志願者数について、志願者増の目標が超過達成されていることは高く評価される。業務推進にあたっては、総長室付付属校連携室との役割分担の明確化が求められる。引き続き、財政状況の改善に向けて努力することを期待する。 |

第二中・高等学校事務室

I 2014 年度目標

| Aセグメント目標 |
|--|
| 以下は、すべて定量的目標に即した内容である。<4- (5) -1)、2)、3)、4)-1) > |
| 昨年度に引き続き法政二中高の 2016 年度中学・高校同時男女共学化・新校舎完成にむけて以下の年度目標を設定し実現する。 |
| 【目標 1】2016 年度二中高の学費改定案を立案し学則変更を行う。 |
| 【目標 2】2016 年度第二中学校の生徒定員増の認可申請をする。現行各学年 200 名→230 名とし、総定員で 90 名の定 |

| |
|--|
| <p>員増の学則変更認可申請を2015年1月におこなう。</p> <p>【目標3】2015年度二中高の入学検定料を改定する。中学・高校とも現行25,000円→30,000円に改定し、2,000人受験者確保し10,000,000円の増収を目指す。</p> |
| Bセグメント目標 |
| なし |
| Cセグメント目標 |
| なし |
| Dセグメント目標 |
| なし |

II 大学評価報告書

| |
|--|
| 2013年度目標の達成状況に関する所見 |
| <p>年度末報告に各年度目標に対する達成度についての記載が見受けられないものの、目標は概ね達成されている。達成度の記載については次回改善を図りたい。神奈川県私学振興課、設計管理業者などの学外の関係者、および、事業室・総務部・人事部・経理部・施設部などの多岐にわたる学内の関連部署との協議・調整を行いながら業務を滞りなく推進している点は高く評価される。</p> |
| 2014年度目標に関する所見 |
| <p>中学・高校同時男女共学化および新校舎完成に向けて必要な目標が掲げられており、全体として適切である。ただし、2013年度に12件あった目標数が2014年度は3件と、数として4分の1に減少している上、2014年度の3件の内容は、いずれも2013年度の12件のうちの3件とほぼ同様の内容であり、業務の継続性が評価されるものの、業務遂行に対する積極性が低下しているように見受けられる。2013年度の目標達成状況を勘案した新たな目標設定が望まれる。</p> |
| 認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見 |
| 該当なし |
| 総評 |
| <p>現在は2016年度の中学・高校同時男女共学化および新校舎完成に向けた重要な時期であり、2014年度については、2013年度に引き続き、2013年度と同程度の質と量の伴った目標設定が求められる。2014年度以降についても、継続的かつ確実な目標設定および目標達成を期待する。</p> |

女子高等学校事務室

I 2014年度目標

| |
|---|
| Aセグメント目標 |
| <p>オープンスクールや学校説明会への参加者数を2013年度の1595名から1.2倍の1,900名を目指す。また受験生総数を2012年度の513名に比較し80名以上の増加である600名を目指す(2013年度は452名)(ビジョン4-(5)-4)。</p> |
| Bセグメント目標 |
| <p>SGHアソシエイト校として大学の関連部局と連携しSGHで実施する計画であったプログラムの実現を行う(ビジョン4-(5)-1)。</p> |
| Cセグメント目標 |
| <p>2013年度の目標であった「在学生や保護者への対応を向上させるとともにワン・ストップ事務の実現を完全する。」をさらに進め「大学の社会的ステータス向上」のため来校者への対応を徹底していく。</p> |
| Dセグメント目標 |
| <p>生徒や教職員が安心して学校生活を送れるような危機管理を行う。</p> |

II 大学評価報告書

| |
|---|
| 2013年度目標の達成状況に関する所見 |
| <p>目標の達成に向けた努力が図られたことは評価できる。</p> <p>ただし、達成度の記載がほとんどAと高いものとなっている点については、達成度の判断基準についての説明が求められる。特にAセグメント目標については目標値と実績値を比較した場合の達成度合いが高くないため、判断理由</p> |

| |
|--|
| <p>が必要である。</p> <p>また、Cセグメント目標については、共有の度合いや、ステークホルダーへの貢献度合いを、どのような判断基準によって高いと判断したのか、具体的な説明が必要である。</p> |
| <p>2014 年度目標に関する所見</p> |
| <p>2014 年度の A および B セグメント目標については、2013 年度の目標設定とほぼ同様の内容の目標設定であり、2013 年度の目標達成状況およびその理由をどのように判断して 2013 年度同様の目標設定としたのか、説明が求められる。また、C および D セグメント目標については、具体的な施策の記述が望まれる。</p> |
| <p>認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見</p> |
| <p>該当なし</p> |
| <p>総評</p> |
| <p>2013 年度目標の達成状況については、全体的に達成度の判断基準の妥当性について不明確な点があり、そのため 2014 年度目標設定についても、その妥当性が問われる状況にあると考えられる。</p> <p>女子高については、現在その将来構想が検討中であることから、それらを踏まえた今後の対応に期待する。</p> |

学生支援本部

学生センター

I 2014 年度目標

| A セグメント目標 |
|---|
| <p>1. 課外活動支援</p> <p>(1) ピア・サポート活動</p> <p>「私が教えます」等多様な視点での取り組みを続け、個人やサークル、急増する留学生等も含めた参加者層の拡大に努める。また、スポーツ団体向け講習会や、犯罪に巻き込まれないようにするための企画等、危機管理側面にも積極的に取り組む。更に、教プロとボランセンの連携、ピア・ネット参加団体との連携等、大学全体の活動であることを意識した取り組みを行う。</p> <p>(2) 学生団体への支援</p> <p>各キャンパスでのサークル支援組織との対話・支援を継続する。中でも、市ヶ谷キャンパスでの CSK と学友会行事実行委員会への支援、育成は重要なテーマとして取り組む。また、ボランティアセンターだけでなく、サークル支援組織も、地域に関心を持つよう指導する。</p> <p>【以上ビジョン 1-(1)-2)】</p> <p>2. 経済支援型学内奨学金の充実</p> <p>既存の学内奨学金の再編・見直し、大学の予算をあてにしない冠奨学金のさらなる充実、各奨学基金への積み増し等を検討し、経済支援型奨学金の充実に取り組む。</p> <p>【以上ビジョン 4-(7)-4)】</p> |
| B セグメント目標 |
| <p>1. 大学のグローバル化への対応</p> <p>急速に進むグローバル化に対応し、相談室においては、学生を送り出すことへの支援 (SA に伴う渡航前支援)、留学生を受け入れることへの支援 (留学生に対応できる心理カウンセラーの確保) 等を強化する。また教プロにおいても、留学生が参加する企画の充実に努める。</p> <p>【以上 1-(3)】</p> <p>2. 法政大学専用寮の設置</p> <p>2014 年 4 月より多摩・小金井エリアに設置された 2 棟の優先寮を 2015 年 4 月に本学学生のみが入寮する専用寮に転換する。市ヶ谷エリアに 2015 年 4 月より 1 棟、2016 年 4 月より更に 1 棟の専用寮を設置する。以上の計画を、提携業者の協力のもと確実に進める。またこれらの専用寮について、日本の学生と留学生が共存する国際学生寮とするスキームを国際交流センターと共に検討する。本学ビジョンの「グローバル化に対する外国語教育と国際プログラムの充実(ビジョン 1-(3)-3)」について側面的支援をする。</p> <p>【以上 1-(3)】</p> |
| C セグメント目標 |
| <p>1. 危機管理体制</p> <p>(1) 組織的業務妨害への対応</p> <p>キャンパス環境の変化等に適切に対応し、学生が不安を抱くことが無いよう、法人と連携し適切に対応する。また、適時正しい情報を学生等に提供するよう努める。</p> <p>(2) 防災体制への協力</p> <p>引き続き総務と連携しに日常的な防災対策に取り組む。また、昨年問題提起した、授業を実施する祝日の職員体制について検討を進める。</p> <p>2. 大学祭問題</p> <p>近年「大学祭に関する学友会合意 8 項目」による大学祭実施等、安心安全な大学祭を目指し取り組んできた。大学祭参加団体にもこの方針は理解されてきており、引き続き安心安全な大学祭を目指す。また、組織的業務妨害を繰り返す集団による、誹謗中傷や妨害行為により、大学祭実施に影響が生じないよう取り組む。</p> <p>さらに市ヶ谷地区では、55/58 年館建替え工事により、大学祭実施に大きな影響が生ずることが懸念される。限られたスペースの中で、創意工夫の下、企画が実施できるよう支援する。</p> <p>3. 東日本大震災被災学生への経済支援</p> <p>東日本大震災被災学生への経済支援を 2014 年度も引き続き実行する。今年度については、入学金減免・学費減免・</p> |

| |
|--|
| <p>奨学金給付(予算額 38,625,000 円)で対応する。2015 年度以降の支援については、そのあり方を他大学の動向を参考にしながら決定してゆく。</p> <p>4. 提携教育ローンの拡充</p> <p>入学時だけでなく在学時を含めた制度に拡張する方向性を再度確認し、関係部局と協議を継続する。その中で、学費システムへの反映が唯一可能との打診のあった株式会社オリエント・コーポレーションの、反社会的勢力との融資問題の影響については、慎重に判断し、2014 年度中に時期を決定できるようにする。</p> <p>5. 次期「情報システム」の新規導入</p> <p>現行「情報システム」が、リブレイス時期を迎える。次期システムは、2016 年 9 月本稼働を目標に構築されるが、奨学金等の仕様書作成を今年度中に遅滞なく実施する。</p> <p>6. 学生のメンタルヘルスケアについて</p> <p>(1) 精神科医師・心理カウンセラーの雇用形態等の見直し</p> <p>2010 年に現在の精神科医師・心理カウンセラーの制度が整備され、ある程度相談室の安定的運営ができるようになった。しかし、その後のメンタルヘルスへの社会的な関心の高まりと共に、嘱託精神科医師・主任カウンセラーについて、安定的な確保が難しい状況が生じている。学生や教職員へのサービス面に止まらず、大学の危機管理としても放置できず、雇用制度も含めて大幅に見直す必要がある。今年度中に具体策をまとめるよう取り組む。</p> <p>(2) 発達障がい学生への修学支援・就職支援体制への検討</p> <p>2013 年度末、障がいのある学生の全学的な支援システム構築に向けたワーキンググループ答申が提出され、その方向性に関して、常務理事会・学部長会議の承認を得た。内容は、「障がい学生支援室」と相談室の組織的統合や専門家の配置、学部との連携、施設的な見直し等、非常に広範囲なものとなっている。優先順位を付け、可能なものから具体案を作成することとする。</p> <p>(3) 学部や学生支援組織と学生相談室の連携を進める</p> <p>学部での新入生面談や低単位取得者、休学者、不登校者等への対応に関する側面支援、学生関係部局との学習会や連携会議、各種支援プログラムの実施等、学生のメンタルな面に関して取り組んでいる部門と連携し、支援する取り組みを進める。</p> <p>7. 市ヶ谷再開発中の学生生活環境に関する配慮</p> <p>第一期工事が本格化し、学生の活動場所、動線等に影響が広がりつつある。これまでの取り組みにとらわれず、現状を十分把握したうえで、施設担当等と対応を進める。また、広報や教プロ、ボランティア等を通じ、学生に対して理解を求める活動にも取り組む。</p> <p>8. 近隣との関係</p> <p>3 キャンパスとも、通学マナー、喫煙、駐輪、公園での飲酒や夜間の滞留、ごみなど、近隣とのトラブルが増加している。教職員や委託業者による巡回や指導等は今後も継続するが、ボランティアセンターを通じての地域貢献やサークルへの啓蒙活動、総務と協力しての地元自治体との協議等、問題が生じないような良好な関係を作る試みを進める。</p> |
| D セグメント目標 |
| なし |

II 大学評価報告書

| |
|--|
| 2013 年度目標の達成状況に関する所見 |
| <p>目標は全体的に着実に達成されているといえる。未達成の目標についても、プロセスがきちんと記載されており、次年度への継続を見据えた総括がされていることは評価できる。</p> <p>年度目標「学生団体の支援」について、学生団体の指導・育成には、多くの献身的で継続的な働きかけが必要であり、一足飛びに目標達成できるものではないと思われるが、一つ一つ着実に前進していることは高く評価できる。年度目標「組織的業務妨害への対応」についても、容易に解決することが困難な課題であるが、継続して取り組まれることが望まれる。</p> |
| 2014 年度目標に関する所見 |
| <p>2013 年度の目標達成状況を受け、継続すべき目標と新たな目標を掲げられており、全体として適切である。</p> <p>年度目標「大学のグローバル化への対応」について、学生相談室の支援対象を、従来の対象である送り出し留学生(日本人)に加えて、受け入れ留学生(外国人)にも広げており、本学の最重点施策とも合致していることは評価できる。</p> |

| |
|--|
| 認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見 |
| 該当なし |
| 総評 |
| キャンパス内外に発生する多くの目標に積極的に取り組み、その実現に向けて継続して努力していることが見受けられる。達成すべき目標は多岐にわたり容易に解決することは困難であるが、継続して取り組まれることが望まれる。 |

保健体育部

I 2014 年度目標

| |
|---|
| Aセグメント目標 |
| <p>【目標 1】 社会的注目度が高い種目の強化のため、強化部をはじめ体育会各部に対する資金面、制度面での大学の支援方法を見直す。(ビジョン4-(2)-1))</p> <p>【目標 2】 昨年同様、ナショナルチームに選出される選手の数を平均 50 人から 75 人へ増やすべく、そのための支援を行う。(ビジョン4-(2)-2))</p> <p>【目標 3】 スポーツ法政新聞会を核に体育会本部等を連携させることにより、本学のスポーツ情報の発信力を高める。(ビジョン4-(2)-3))</p> |
| Bセグメント目標 |
| なし |
| Cセグメント目標 |
| <p>【目標 1】 老朽化の著しい府中 4 部の合宿所建替えに向けて施設部の協力を仰ぎながら 2015 年度の予算化を図る。</p> <p>【目標 2】 学内に 4 か所あるトレーニングセンターは、体育会だけでなく一般学生の利用率も高いので、そのニーズに応えるべく機器の拡充等を図る。</p> |
| Dセグメント目標 |
| なし |

II 大学評価報告書

| |
|--|
| 2013 年度目標の達成状況に関する所見 |
| <p>体育会所属学生や一般学生に対する多岐にわたる課題への継続的な努力がなされていることは評価できる。</p> <p>年度目標「老朽化した府中合宿所の代替施設について 2014 年度の予算化を図る」について、年度末報告では、学内の合意を得られず未達成となっているが、今後の展開に向けて、その具体的な理由を記載することが望まれる。</p> <p>年度目標「最重点強化部及び重点強化部で保健体育部嘱託として採用している監督等の指導者について、優秀で実績のある人材を 4 年の嘱託期間満了後も採用することができる制度を検討する」について、年度末報告では、達成度 A となっている。採用に関する制度変更は確認できず、個別決裁を得たものと考えられるが、事務手続き上問題があるのではないかと。</p> |
| 2014 年度目標に関する所見 |
| <p>2013 年度の目標達成状況を受け、継続すべき目標と新たな目標を掲げられており、全体として適切である。</p> <p>部目標には、体育課に関する記載のみで、保健課に関する記載が見受けられないが、健康管理は保健体育部の重要課題であり、部目標に掲げることが必要ではないかと。</p> |
| 認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見 |
| 該当なし |
| 総評 |
| <p>体育会所属学生のみならず、在学生・教職員の全てを対象とした取り組みを継続して努力していることは大いに評価できる。</p> <p>個々の目標に対する年度末報告については、当該目標に取り組んだ結果、得られた成果や新たに生じた課題等につ</p> |

いても記載し、次年度への継続目標とした際により具体的な課題とすることが望まれる。

キャリアセンター

I 2014 年度目標

A セグメント目標

目標 1：実質的就職率アップのため、学生の就業意識と就職へのモチベーション向上を図り、併せて就活対策を強化する。(ビジョン 1 - (4) - 3))

- ・(新入生向け) 全キャンパスでキャリアガイダンスを充実し、参加者数 1,900 名を目指す。【認証評価指摘事項対応】
- ・(就活生向け) 就職支援プログラムを充実し、参加者数 64,100 名を目指す。
- ・(就活生向け) 個別指導体制を充実し、利用者数 18,000 名を目指す。
- ・(低学年向け) キャリア形成支援プログラム参加者数 1,180 名を目指す。
- ・(インターンシップ) 全キャンパスでインターンシップ支援プログラムを充実し、参加者数 1,550 名を目指す。【認証評価指摘事項対応】
- ・(学生全般) 情報発信の強化を 1 施策以上実施する。
- ・(学生全般) 学生サービス向上に向けた施策を新たに 1 施策以上履行する。

目標 2：有名企業への就職率アップのため、学生の就職へのモチベーション向上を図り、併せて就活対策を強化する。(ビジョン 1 - (4) - 3))

- ・就活解禁日(3月1日)の大規模学内セミナーを実施し、参加者数 10,000 名を目指す。
- ・筆記試験強化対策を実施し、受講者数 2,000 名を目指す。
- ・有名企業訪問を実施し、情報収集・人事担当者とのパイプ作り、支援対策へのフィードバックに取り組む。訪問企業 50 社を目指す。
- ・体育会の学生をターゲットとした有名企業への就職支援策を、1 施策以上実施する。

目標 3：国家公務員および地方公務員合格者数アップのため、学生の公務員就職へのモチベーション向上を図り、併せて試験対策を強化する。(ビジョン 1 - (4) - 4))

- ・公務員講座のプログラムを充実し、受講者数 1,480 名を目指す。

目標 4：卒業生によるキャリア支援の拡充のため、法政企業人コミュニティ(法政 B P C)と連携した事業を実施する。(ビジョン 1 - (4) - 6))

- ・「学内での O B ・ O G 訪問」(仮称)を他キャンパスに拡大して実施し、参加者数 250 名を目指す。【認証評価指摘事項対応】
- ・「業界本音トーク」を実施し、参加者数 150 名を目指す。

目標 5：留学生の就職支援を拡充し、日本での就職活動のモチベーションの向上を図る。(ビジョン 1 - (4) - 7))

- ・ガイダンスを他キャンパスに拡大して実施し、参加者数 110 名を目指す。【認証評価指摘事項対応】
- ・「ビジネス日本語能力テスト」を他キャンパスに拡大して実施し、受験者数 30 名を目指す。【認証評価指摘事項対応】

目標 6：大学院生の就職支援策策定のため、大学院事務部と連携して就職環境・就職に対する意識等を調査し、実施可能なものから就職支援策を具体化していく。(ビジョン 2 - (2) - 4))

目標 7：法科大学院の新司法試験対策を側面から支援するため、法職講座および司法試験対策講座の拡充を図る。(ビジョン 1 - (4) - 1))

- ・法職講座を拡充し、受講者数 50 名を目指す。
- ・司法試験対策講座を拡充し、受講者数 50 名を目指す。

目標 8：公認会計士試験合格者数アップのため、学生のモチベーション向上を図り、併せて試験対策を強化する。(ビジョン 1 - (4) - 2))

- ・公認会計士講座のプログラムを充実し、受講者数 300 名を目指す。
- ・今年度発足した「高度会計人育成センター」の円滑な運営を図る。

B セグメント目標

なし

C セグメント目標

目標 1：就職・キャリア支援に携わる職員としてのスキルアップを図る。

- ・職員のスキルアップに向けた勉強会を 1 回以上実施する。
- ・職員のスキルアップに向けた専門的研修に 1 名以上を派遣する。

| |
|---|
| <p>目標2：エクステンションプログラムの見直しと拡充を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生向けプログラムのニーズに沿った見直しを進め、受講者数 300 名を目指す。 ・今年度休止した社会人・卒業生向けプログラムに関し、運営委員会で今後の方針を決定する。 ・3 キャンパスでのプログラム実施について、検討を行う。【認証評価指摘事項対応】 |
| Dセグメント目標 |
| なし |

II 大学評価報告書

| |
|--|
| 2013 年度目標の達成状況に関する所見 |
| <p>各年度目標が具体的かつ定量的に設定されており、また目標に対する達成状況も同様に具体的に報告がなされていることは評価できる。ただし、達成した項目について、その効果を記載できれば、より理解が深まると考える。</p> <p>例) キャリアガイダンスの参加者数目標 66,000 名に対して、実参加者数 73,675 名だった。どのような効果が現れるか。</p> <p>未達成の項目については未達成の原因や理由等の分析結果を合わせて記載しており、評価できる。</p> |
| 2014 年度目標に関する所見 |
| <p>2013 年度の目標達成状況や実績を踏まえて、新たな目標が掲げられており、全体として適切である。</p> <p>定量的目標については、(前年度増減など) 目標とする数値の妥当性を記載することが望まれる。</p> |
| 認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見 |
| <p>全学として改善が望まれる指摘事項 6. 学生支援「進路支援について、3 キャンパスにおいて差異のないサービスを実施することが望まれる」について、2013 年度は明確な目標設定がされていなかったが、2014 年度目標においては、キャリアガイダンス、インターンシップ支援プログラム、学内での OB・OG 訪問、ビジネス日本語能力テストを全キャンパスで展開することが目標に掲げられており、評価できる。</p> |
| 総評 |
| <p>就職支援、キャリア支援に関する各種施策を着実にやっていることは大いに評価できる。</p> <p>毎年職員のスキルアップに向けた専門的研修の受講に取り組んでいることは評価でき、今後も継続することが望まれる。</p> |

国際学術支援本部

研究開発センター

I 2014年度目標

| Aセグメント目標 |
|---|
| 1. 大型外部資金の獲得 (目標1) 大型外部資金獲得を目指すため、3つ以上のプログラムに申請する。(ビジョン2-(1)-1)) (目標2) 大型研究資金を獲得するための支援体制案を1つ以上考える。(ビジョン2-(1)-1)) |
| 2. 研究拠点の確立 (目標1) 研究所長会議の継続運営と先駆的な研究を1つ以上生み出す。(ビジョン2-(1)-2)-2)) (目標2) 研究所助成金の減額ルールを再考し、原資の有効利用を図る。(ビジョン2-(1)-1)-2)) |
| 3. 外部資金による研究費獲得施策 (目標1) 科研費申請件数を増やすための施策・制度・工夫など1つ提案する。(ビジョン2-(4)-1)) |
| 4. 研究成果の社会還元 (目標1) 研究者データベースの業績入力を100%にする。(ビジョン3-(3)-1)-1)) (目標2) 研究所の研究成果をデータ化し公開する。(ビジョン3-(3)-1)-3)) |
| Bセグメント目標 |
| 1. 公的研究費の適正な執行管理 (目標1) 検収センターの安定的な運営を維持し、検収体制の充実を図る。 (目標2) 発注検収システムの導入を図り、不正経理を確実に防止する。 (目標3) 研究者への説明、告知、周知の浸透を図る。ルール改正などを研究者へもれなく伝える。 |
| Cセグメント目標 |
| なし |
| Dセグメント目標 |
| なし |

II 大学評価報告書

| 2013年度目標の達成状況に関する所見 |
|---|
| 年度末報告に各年度目標に対する達成度の記載が見受けられない。次回は改善を図られたい。 また、年度末報告の文面からは、全体を通じて、多くの目標が達成出来ていないと考えられ、目標立案段階での精査が望まれる。 年度末報告の結果の記述に「常務理事に提案した」「議論するまでに至らなかった」「ペンディング」「告知、周知を促した」「ヒアリングを行った」などの表現が見受けられるが、これらの表現では、年度目標の達成状況が不明である。 年度目標「公的研究費の適正な管理」について、研究者への周知方法を工夫し、大きな苦情もなく、制度の浸透が図られていることは評価できる。 年度目標「研究倫理規程の整備」について、2011年度から継続して取り組んでいる目標であり、2013年度に規程制定が完了したことは、大いに評価できる。 |
| 2014年度目標に関する所見 |
| 2013年度の目標達成状況を受けて、新たな目標を掲げられており、全体として適切である。 2013年度目標は「検討する」「考える」「模索する」「刺激を与える」等の記述が曖昧で具体性に欠けるとの評価であったが、2014年度は、多くが定量的な検証が可能な目標になっており、適切である。 |
| 認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見 |
| 該当なし |
| 総評 |
| 研究活動は、高等教育機関の重要課題のひとつであり、外部資金獲得による研究資金の拡充は研究活動に寄与するため、研究支援部局の果たす役割は大きい。 預り金・プール金問題に端を発して設立された検収センターへの社会的関心は高く、不正防止に資する適正な運用が期待される。 |

国際交流センター

I 2014 年度目標

| Aセグメント目標 |
|--|
| <p>1. 外国人留学生参加の年間行事の企画・実施 留学生と日本人学生が多文化交流できる企画について、新規・継続とも年間行事に組み込み実行する。(ビジョン 1.-(3)-3))</p> <p>2. 外国人留学生増加のための活動 入学センターと協働し、国内外の日本語学校情報を収集し、訪問の機会を増やす。支援体制の強化についても、他部局との連携を図る。(ビジョン 1.-(3)-4))</p> <p>3. 海外協定校の増加 海外大学・機関との協定数を 2014 年度末までに 150 校へ増やす。次年度以降の増加計画を進める。(ビジョン 1.-(3)-5))</p> <p>4. 海外ネットワークの構築 北京事務所、台湾事務所を有効に機能させ、日本留学フェア出張等の機会に、在外卒業生組織とのネットワークを強化する。(ビジョン 1.-(3)-6))</p> <p>5. 研究者交換プログラムの再検討と拡充計画 交換研究員派遣／受入れプログラムの有効活用、他の研究者交流プログラムの見直し再編計画を立てる。(ビジョン 2.-(3)-1))</p> <p>6. エラスムス・ムンドゥス・ユーロフィロソフィーの充実 本プログラムを本学が成功裏に実施していることを十分に周知し、高いレベルの学生受け入れを目指す。(ビジョン 2.-(3)-2))</p> <p>7. 短期留学生の受入れ拡大 3 プログラム以上を目標として受入プログラムを構築し実施する。(ビジョン 1.-(3)-1))</p> <p>8. ESOP への私費留学受入れ拡大 15 名以上を目標として ESOP への私費留学生を積極的に受け入れる。(ビジョン 1.-(3)-4))</p> <p>9. ダブルディグリープログラムの充実 情報科学研究科と中国教育部模範的ソフトウェア学院に所属する中国の各大学とのダブルディグリープログラムの協定大学数を増やし、15 名以上を目標として学生を受け入れる。(ビジョン 2.-(3)-2))</p> <p>10. SA 制度の拡大および海外派遣学生数の増加 SA 制度の充実・拡大と、海外派遣学生数 650 名の到達を目標に、SA 実施学部との協働による内容拡充や、未実施学部での SA 導入支援を行う。(ビジョン 1.-(3)-1))</p> |
| Bセグメント目標 |
| <p>1. 学内関係部局との連携強化 学内の関係部局との連携を強化することにより、留学生のさらなる増加、緊急時の役割分担等の体制を築いていく。(ビジョン 1.-(3)-3))</p> <p>2. 既存プログラム充実のための支援 SA 制度の改善、開発支援により、既存プログラムのさらなる充実を図る。(ビジョン 1.-(3)-1)、 2))</p> |
| Cセグメント目標 |
| <p>1. 大学の社会的ステータス向上 本学が外国人留学生の受け入れと派遣留学生・短期語学研修等の送り出しを大幅に増加し、そのサポート強化により、真の国際化を図っていることを内外に示し、本学のステータス向上に寄与する。</p> <p>2. 学生派遣数の増加に伴う学生支援、保護者への情報提供と危機管理 海外に派遣する学生数の増に伴う学生支援体制（メンタル面を含む）を拡充し、保護者への適切な情報提供等を実施する。また、さらなる危機管理体制の強化に取り組む。</p> |
| Dセグメント目標 |
| <p>1. 国際交流センター内の業務連携強化 国際交流センター業務は、それぞれ独立性が高いため、担当間の情報共有、連携を強化するため部内研修を工夫する。</p> <p>2. 関連部局との業務分掌の確認</p> |

SA 課と SA 実施学部、業務委託業者との間の業務分掌、役割分担を再確認し、業務改善に努める。

II 大学評価報告書

| 2013 年度目標の達成状況に関する所見 |
|---|
| <p>年度末報告に各年度目標に対する達成度の記載が見受けられない。次回は改善を図られたい。</p> <p>外国人留学生の門戸を拡大しようとする継続的な努力がなされていることは大いに評価できる。</p> <p>D セグメント年度目標の業務分掌の再整理について、部局内においては、「SA 課と SA 業務委託業者との間の業務分掌についてはほぼ整理され、日常業務においても円滑なやり取りが可能になった」点は評価できる。部局間においては、SA 実施学部と国際交流センターとの間で業務分掌について問題を抱えているようであるが、大学全体における業務の効率化・最適化の観点から引き続き部局間で調整を行い、問題が解決されるよう期待したい。</p> |
| 2014 年度目標に関する所見 |
| <p>2013 年度の目標達成状況や実績を踏まえて、新たな目標が掲げられており、全体として適切である。</p> <p>また、年度目標が具体的かつ定量的に設定されており、達成度の検証も可能な設定になっており評価できる。</p> <p>特に、D セグメント年度目標「関連部局との業務分掌の確認」について、2013 年度に「業務分掌の再整理が大きく後退した」点に対応して、新たな目標として掲げられており、引き続き検討が望まれる。</p> |
| 認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見 |
| <p>該当なし</p> |
| 総評 |
| <p>受け入れ外国人留学生数の増加のための地道な活動や学内諸制度の整備に積極的に取り組み、その実現に向けて継続して努力していることは評価できる。また、送り出し日本人留学生のレギュラー対応について、積極的かつきめ細かい対応を行い、保護者の不安解消にも努めていることは、高く評価できる。</p> |

総合情報センター事務部

I 2014 年度目標

| A セグメント目標 |
|---|
| なし |
| B セグメント目標 |
| なし |
| C セグメント目標 |
| なし |
| D セグメント目標 |
| <ol style="list-style-type: none"> 各ビジョン主要項目を実現するためのインフラ基盤として利活用されている、ネットワーク基盤システム (net2010) の安定的な運用をはかることを目標とする。具体的には、授業期間、業務時間中のシステム障害ゼロを目標とする。 各キャンパスで展開している情報教育設備 (各キャンパス edu システム) の安定的な運用をはかり、授業期間中の障害ゼロを目標とする。 2015 年 4 月各キャンパス情報教育システムを新システムへリプレースを実施する。リプレースにあたり、3 キャンパスで共通要素を検討・抽出し、合理的に調達可能なものを共通調達とする。 事務システムの順次更新を実施する。管理系情報を担当するシステムのリプレースを実施し、2015 年 9 月サービスインを目標とする。 情報セキュリティポリシーの実施手順の策定 2014 年 4 月より施行された「情報セキュリティポリシー」に定められている実施手順について検討を行い、案を作成する。 人材の育成 実務を通してのノウハウ吸収のほか、ICT 関連展示会への参加及び外部機関での専門研修でのテクニカルスキル養成を行う。 |

II 大学評価報告書

| |
|--|
| 2013年度目標の達成状況に関する所見 |
| 年度末報告に各年度目標に対する達成度の記載が見受けられない。次回は改善を図りたい。 障害をゼロにはできなかったものの、障害に対する原因究明や対応方法の検討がなされていることは評価でき、各目標は全体的に着実に達成されているといえる。 2013年度大学評価報告書の「情報セキュリティに関する啓蒙活動の取り組み」「情報センター以外の基礎的業務知識の習得」について具体的な記載が望まれる、という指摘について、適切にフィードバックがなされており、評価できる。 |
| 2014年度目標に関する所見 |
| 2013年度の目標達成状況や実績を踏まえて、新たな目標が掲げられており、全体として適切である。 諸システムの安定運用、セキュリティ対策、来るべきシステム更新の準備等、インフラとして安定的に維持されて当然と思われる課題に対して目標設定し、継続的な努力をしていく姿勢は評価できる。 また、人材育成についても当該部局の専門的スキルのみならず、他部局業務の基礎的業務知識の習得を目標としていることは大いに評価できる。 |
| 認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見 |
| 該当なし |
| 総評 |
| インフラとしての各システムを安全に、かつ安定的に運用していくことは非常に重要であり、その安定的に稼働させる努力は万人に理解されるものではないにもかかわらず、その実現に向けて継続して努力していることは大いに評価できる。 2013目標にあった、「コストとのバランスも重要」という記載が2014年度目標に見当たらないが、情報システム関連予算額は膨大であり、今後も重要課題のひとつとして取り組まれることが望まれる。 |

図書館事務部

I 2014年度目標

| |
|---|
| Aセグメント目標 |
| 【目標1】 紀要類の登録、80%最終目標に向けて、2013年度に完了した調査・分析を基に、リポジトリ登録未実施の学部・研究科・研究所等に実施方法の具体的提案（許諾・登録フォーマットを提示）を行う。（ビジョン3-(3)-2：リポジトリによる研究成果の公開） |
| 【目標4】 法政大学のミッション・ビジョンを実現するために、2014年度MV直結事業（予算）に採択された図書館事務部に関する以下の事業について、100%実施を完了する。 (1) 貴重書の修復保存及び電子化公開事業（市ヶ谷）（ビジョン4-(1)：大学発信力の強化） |
| Bセグメント目標 |
| なし |
| Cセグメント目標 |
| 【目標2】 情報リテラシー教育をはじめとした学習支援機能を向上させるため、ゼミサポート・ガイダンスに注力し、図書館事務部各課が各キャンパスの実情に即したガイダンス実施回数目標値を達成する。また、ガイダンス実施後のアンケートで80%以上の受講者満足度を得る。 |
| 【目標3】 《認証評価指摘事項対応》 (1) 小金井図書館の専任職員配置に関する「(公益財団法人)大学基準協会」から示された指摘事項(努力課題)について、改善の実現に向けて関連部局に再度強く働き掛ける。 《全学として改善が望まれる指摘事項対応》 (2) 市ヶ谷田町校舎図書閲覧室の図書資料に関する本学「大学評価室」から示された「全学として改善が望まれる指摘事項」について、「市ヶ谷田町閲覧室」の適正な蔵書数・閲覧スペースなど問題点の抽出を完了させ、解決に向けての提案書を作成し、法人に当該目標が政策的事業として策定されるよう働きかける。 |

| |
|-----------------|
| Dセグメント目標 |
| なし |

II 大学評価報告書

| |
|--|
| 2013 年度目標の達成状況に関する所見 |
| <p>目標は全体的に着実に達成されているといえる。</p> <p>年度目標2「ゼミサポート・ガイダンスに注力」について、情報リテラシー教育推進のための地道なガイダンス活動等を継続的に実施し、高い評価を得ていることは大いに評価できる。</p> |
| 2014 年度目標に関する所見 |
| <p>2013 年度の目標達成状況や実績を踏まえて、新たな目標が掲げられており、全体として適切である。</p> <p>年度目標1「リポジトリ登録数」について、「実施方法の具体的提案（許諾・登録フォーマットを提示）を行う」とあるが、達成度の検証対象が、実施の有無なのか、提案の内容なのか不明であり、達成度の検証が困難であるため、より具体的な記載が望まれる。</p> <p>年度目標2「ゼミサポート・ガイダンスに注力」について、「ガイダンスの実施回数の目標値を達成する」とあるが、課目標では、受講者数であったり、実施回数であったりばらばらである。「ガイダンスの実施回数または受講者数の目標値を達成する」とするべきである。</p> |
| 認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見 |
| <p>認証評価における指摘事項（「小金井キャンパス図書館への専任職員の配置」「市ヶ谷田町校舎の図書閲覧室の図書資料」）について、自部局だけで解決できる問題ではなく、改善への難度は高いが、問題点を一つ一つ着実にクリアしており、継続的な取り組みを期待する。</p> |
| 総評 |
| <p>教育・研究・学術の基礎となる図書館は、本学学生・教職員のみならず学外の一般社会に対してもサービスを提供しており、大学にとって重要な役割を担っているといえる。学内外に対してのサービスの充実に関する取り組みを継続して努力していることは大いに評価できる。</p> <p>より一層のサービス向上、利用機会の拡充のために、新たな施策を打ち出されることを期待する。</p> |

地域研究センター事務室

I 2014 年度目標

| |
|--|
| Aセグメント目標 |
| なし |
| Bセグメント目標 |
| <p>【目標1】学部、大学院や自治体との連携拡充を図るため、その資金を外部から獲得する。(ビジョン2-(1)-3)-3))</p> <p>→新たな外部資金を1件以上獲得する。</p> <p>【目標2】紀要掲載の論文・研究ノートの掲載本数を増やす。主催するシンポジウム、セミナーの報告書は必ず刊行する。(ビジョン3-(2)-1))</p> <p>→論文・研究ノートの掲載本数は10本以上。報告書の刊行</p> <p>【目標3】自治体との協力協定を通して、学部生の地域振興活動を支援・強化し、新たな活動拠点を設ける。また、受託研究などの外部資金の獲得を通して、院生の調査研究活動の修練機会を増やす。(ビジョン3-(3)-1))</p> <p>→学部生に対し、活動拠点となる事業を1件以上確保する。院生に対しては、調査研究の修練機会の場を1件以上獲得する。</p> <p>【目標4】現在台東区を初めとする全国の自治体と事業協力協定を結んでいるが、新たな自治体とも連携して、教育、研究、コンサルティング事業などを強化・展開する。(ビジョン3-(3)-1))</p> <p>→昨年度好評であった「自治体トップ交流会」をはじめとした自治体関係のイベント数を2件以上実施し、実質的な連携を強化する。</p> |
| Cセグメント目標 |
| なし |
| Dセグメント目標 |
| 【目標1】運営委員会を年定期的に開催。組織運営の定例化を図る。 |

→運営委員会年5回以上の開催

II 大学評価報告書

| |
|---|
| 2013年度目標の達成状況に関する所見 |
| 年度末報告に各年度目標に対する達成度の記載が見受けられない。次回は改善を図りたい。 概ね各目標は達成できている。目標「新たな自治体と協定を締結する」については目標達成とはならなかったが、自治体トップ交流会議を実施するなど、積極的に取り組んでいる。目標「外部資金の獲得」では新たな獲得を実現しているが、その他を含めた外部資金総額の経年変化がわかるような記載をして、獲得状況を明確にしていくことが望ましい。また、目標「紀要『地域イノベーション』の充実」では、「当初目標としていた10本以上を達成することができた」とあるが、当初目標にこのような具体的な数値目標の記載はない。 |
| 2014年度目標に関する所見 |
| 2013年度の目標達成状況を受けて、2014年度目標は更なる項目も追加しており適切である。数値目標を設定しているものもあり、達成状況の検証が行いやすくなっているところは評価したい。 2013年度を踏襲している目標も見受けられる。それらは単なる継続とせず一歩踏み込んだ取り組みとなることを期待したい。 |
| 認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見 |
| 該当なし |
| 総評 |
| 2013年度目標の「外部資金の獲得」について、2012年度と同様に達成できており評価できる。大学の収入源は限られているため、外部資金の獲得による収入の増加は重要である。今後も更なる資金獲得に向けて取り組んでいただきたい。また、2013年度に達成できなかった新たな自治体との協力協定は、2014年度もあらためて取り組んで締結を目指していただきたい。そして、これに基づく調査研究を行うことにより、学生の修練に寄与していくことを期待する。 |

マイクロ・ナノテクノロジー研究センター事務室

I 2014年度目標

| |
|---|
| Aセグメント目標 |
| 1. 大型外部資金の獲得 【目標1】外部資金を獲得するための支援業務を実施する。(ビジョン2-(1)-1)) |
| 2. 研究成果の社会還元 【目標1】研究センターとして「環境」「持続可能性」に関するシンポジウム、公開セミナーおよび講演会を定期的に開催し社会貢献を果たす。(ビジョン3-(2)-1)) 【目標2】研究プロジェクトの研究成果をデータ化し、ホームページで公開する。(ビジョン3-(3)-1)-3)) |
| Bセグメント目標 |
| 1. 社会連携・社会貢献を果たす 【目標1】産学連携活動に積極的に参加し、研究成果の発表・展示会等で情報を発信する。(ビジョン3-(3)-1)) |
| Cセグメント目標 |
| なし |
| Dセグメント目標 |
| なし |

II 大学評価報告書

| |
|---|
| 2013年度目標の達成状況に関する所見 |
| 各目標は概ね達成できており、また達成に向けた努力もうかがえる。特に文部科学省補助金「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」(研究期間5年)を教員と職員の連携を重ねて獲得したことは高く評価できる。これまでの取り組みの成果であり、当研究センターの運営に大きく寄与するもので、今後の研究活動に期待したい。その中で達成状況の記載内容は補助金を獲得した結果を中心としたものであったが、検証、評価を行いやすくするためには、達成に向けたプロセスや問題点、課題及びそれらの解決方法について、具体的に記述されていることが望ましい。 |
| 2014年度目標に関する所見 |
| 外部資金獲得など2013年度の目標達成状況を受けての目標設定で概ね評価できる。 |

| |
|--|
| 2012年度、2013年度と未実施だった「ホームページの内容の充実と更新の継続」は、目標「研究プロジェクトの研究成果をデータ化し、ホームページで公開する。」へと発展させた表記になっていると考えられる。研究員と協力して実現に向けて取り組んでいただきたい。 |
| 認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見 |
| 該当なし |
| 総評 |
| 2012年度に終了した外部資金にかわり新たに大型の外部資金を獲得できたことは高く評価できる。大学の収入は限られており、また、当研究センターは多額の資金が必要となることが考えられるため、今後も更なる獲得に向けて取り組んでいただきたい。その他の目標としては、研究成果に基づく社会貢献、還元等が中心であるが、事務組織として研究成果向上のために何ができるか、その具体的な取り組みを新たな目標として設定することを検討していただきたい。 |

サステナビリティ研究所事務室

I 2014年度目標

| |
|--|
| Aセグメント目標 |
| 目標1 国際シンポジウムや講演会等を実施することにより、研究成果を広く社会に公表する。(ビジョン3-(3)-1) |
| 目標2 研究成果である『A World Environmental Chronology』および『原子力総合年表』を公刊する。(ビジョン3-(3)-1) |
| Bセグメント目標 |
| なし |
| Cセグメント目標 |
| なし |
| Dセグメント目標 |
| なし |

II 大学評価報告書

| |
|---|
| 2013年度目標の達成状況に関する所見 |
| 該当なし |
| 2014年度目標に関する所見 |
| 研究成果を広く学内外に公開していくことは重要ではあると考える。一方、研究成果発表に関する二つのみが目標であることは、物足りなさが否めない。研究成果向上のため、事務として何ができそして何が課題か、それを目標として設定することを期待する。 |
| 認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見 |
| 該当なし |
| 総評 |
| 外部資金獲得についてふれられていない。今後、当研究センター継続に外部資金獲得が重要であるならば、獲得に向けての目標管理も行うべきである。 |

グローバル人材開発センター事務室

I 2014 年度目標

| Aセグメント目標 |
|---|
| <p>【目標 1】 「学部生を対象にして、英語で行われる授業を受講できるレベルの英語力を身につけることができる学部横断的プログラム（ERP）の充実を図る」について、「グローバル人材育成推進事業」の一環で英語強化プログラム（ERP）を実施する。（ビジョン 1.- (3) -2)）</p> <p>【目標 2】 「留学生と学部学生が多文化交流できる企画を充実させる」について、「グローバル人材育成推進事業」の一環として、全学生が自由に利用できる多文化交流スペース「G ラウンジ」を 3 キャンパスに開設し、会話練習や学習相談に応じるだけでなく、各種プログラムの広報・申請窓口として学内の交流を促進するための拠点とする。（ビジョン 1.- (3) -3)）</p> |
| Bセグメント目標 |
| <p>【目標 1】 「英語学習に意欲のある学生を対象とした、学部横断的英語教育プログラムが整備されている」について、「グローバル人材育成推進事業」の一環として、英語強化プログラム（ERP）を実施する。（ビジョン 1.- (3) -1)）</p> <p>【目標 2】 「SA が全学部対象となっており、学内外での国際的プログラムが充実している」について、「グローバル人材育成推進事業」の一環として、長期休暇期間中に国際インターンシップと国際ボランティアプログラムを実施する。（ビジョン 1.- (3) -2)）</p> <p>【目標 3】 「受入れ留学生数の増大や、留学生と一般学生を交流させる仕掛けが充実している」について、3 キャンパスに「G ラウンジ」を開設するとともに、留学生と一般学生の交流イベント開催を検討する。（ビジョン 1.- (3) -3)）</p> |
| Cセグメント目標 |
| <p>【目標 1】 「グローバル人材育成推進事業」により実施する様々なプログラムを積極的に発信し、本学の社会的ステータスの向上に貢献する。</p> <p>【目標 2】 学生への国際キャリア支援を通じてステークホルダーの満足度を向上させる。</p> |
| Dセグメント目標 |
| なし |

II 大学評価報告書

| 2013 年度目標の達成状況に関する所見 |
|--|
| <p>目標は全体的に適切に実施されており、評価できる。ただし、Cセグメント目標 2「学生への国際キャリア支援を通じてステークホルダーの満足度を向上させる」について、参加人数のみの年度末報告内容であるため、それが目標に対して十分な参加人数であるのかどうか、また、それがステークホルダーの満足度の向上につながっているのかどうかについて、説明が求められる。</p> <p>また、Aセグメント目標 1 と Bセグメント目標 1 は、いずれも英語強化プログラム（ERP）開講により達成度 A となっているが、Aセグメント目標 1 は参加人数により達成度 A とし、一方 Bセグメント目標 1 については参加人数の記載がなく、プログラムを開講したことのみによって達成度 A としており、両者の相違点について説明が求められる。</p> |
| 2014 年度目標に関する所見 |
| <p>2014 年度目標は、2013 年度の目標設定とまったく同じ、または、内容的に重複する内容の目標設定であり、継続性は評価されるものの、新しい取り組みを行うべく新設されたばかりの部局であり、部局として 2 年目の目標であることを考慮すると、新たな目標設定としては、さらに充実した目標設定を期待したい。2013 年度の目標達成状況を受けた次のステップを目指した新たな目標設定が望まれる。</p> <p>また、2013 年度の Bセグメント目標 3 の年度末報告において「3 キャンパスに設置している G ラウンジ」という記載があるのに対し、2014 年度の Bセグメント目標 3 は「3 キャンパスに G ラウンジを開設する」目標となっており、その整合性について説明が求められる。</p> |

| |
|---|
| 認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見 |
| 該当なし |
| 総評 |
| 法政大学の期待される新たな業務を推進するところであり、学内外のグローバル化状況、および、将来展望を見据えた目標設定が必要不可欠であり、積極的な姿勢を期待する。 |

ハラスメント相談室

I 2014 年度目標

| |
|---|
| Aセグメント目標 |
| 【目標1】 小金井キャンパス・多摩キャンパスにおいて、ハラスメント相談室の定期巡回相談を実施する。(ビジョン4-(6)) |
| Bセグメント目標 |
| なし |
| Cセグメント目標 |
| 【目標1】 各学部教授会に働きかけ、「基礎ゼミ」等入門授業において、学生向けにハラスメント防止と本学の対策を啓発する研修を行う。(出前研修) |
| 【目標2】 教職員向けハラスメント防止・対策啓発のための冊子「ハラスメント防止ガイドブック」を全教職員に配布し、ハラスメント防止を啓発する。 特に教員向けの研修を兼ねて、各学部教授会配布時に専門相談員あるいはハラスメント防止・対策委員より説明を行いハラスメント防止について認識を深めていただく。 |
| 【目標3】 学部所属ではない教員及び付属校生徒に対するハラスメント防止活動、研修の方法について検討する。(認証評価指摘事項対応) |
| Dセグメント目標 |
| なし |

II 大学評価報告書

| |
|--|
| 2013 年度目標の達成状況に関する所見 |
| 目標は全体的に着実に達成されている。認証評価における指摘事項に対しての適切な対応は評価される。「教職員のためのハラスメント防止ガイドブック」については、年度内の配布が目標となっているところを、年度内には配布がされなかったため、達成度 B と自己評価しているが、年度内に納品がされており、かつ、配布時期について、退職者の多い年度末よりも新任者の多い年度初の方が望ましいと判断できる点から、十分に目標を達成していると評価できる。 |
| 2014 年度目標に関する所見 |
| 2013 年度の目標達成状況を受けて、継続的な目標が掲げられており、全体として適切である。ただし、A セグメント目標1「小金井キャンパス・多摩キャンパスにおいて、ハラスメント相談室の定期巡回相談を実施する」については、2013 年度目標と同一であり、毎年度の単年度目標とするのではなく、定型業務化を目標とすることが望まれる。 また、2013 年度目標については、2013 年度大学評価報告書の所見において「付属校生徒に関する目標が見受けられない。再度検討することが必要ではないか。」と指摘があるが、2014 年度目標において適切に対応されている。 |
| 認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見 |
| 認証評価における指摘事項である「学生への啓発を促す研修」が実際に実施されており、適切に対応されている。今後の継続的な実施により、本件が定型業務となることを期待したい。 |
| 総評 |
| 2013 年度の目標達成状況、および、2014 年度の目標設定について、全体的に適切であり、評価できる。ハラスメント相談室業務についてはその継続性が重要であると考えられるため、今後とも発展的かつ継続的な取り組みを期待する。 |

監査室

I 2014年度目標

| |
|--|
| Aセグメント目標 |
| なし |
| Bセグメント目標 |
| なし |
| Cセグメント目標 |
| なし |
| Dセグメント目標 |
| 【目標1】各部局業務監査の実施 今年度は、全部局業務監査2年サイクルの2年目で、12部局に対して監査を実施する。監査は5月～1月にかけて、決裁書と支出伝票を材料として、部局共通監査項目と該当部局固有監査項目を中心に監査する。業務の適正な執行と改善を図るとともに、諸資源の有効活用と経営の効率化に資することを目的としている。 |
| 【目標2】公的研究補助金監査の実施 1. 内部業務監査の一環として公的研究補助金の監査を実施する。科学研究費補助金、学術研究助成基金助成金、その他の競争的資金について通常監査と特別監査というかたちで行う。 合わせて、預かり金・プール金問題から設置された検収センターについても監査する。 2. 「公的研究費の管理・監査ガイドライン(実施基準)」の改正に伴い、研究開発センターが具体的対応策を策定することに関して、支援し協力する。 |
| 【目標3】環境監査の実施 環境マネジメントシステムの定期環境監査を実施する。定期環境監査は、3年間で全部門を監査することが環境監査手順書に定められているが、経営層、環境センター、施設部等、毎年監査を実施する部門と3年毎に監査を実施するその他の部門が対象となる。監査対象部局については、監査サイクルと環境負荷を考慮して対象を選定している。監査は、合理性と効率性に基づき実施し、環境マネジメントシステムの維持改善に貢献している。 また、EMS研修講座に係る内部監査についても精度を高め、充実させる。 |

II 大学評価報告書

| |
|---|
| 2013年度目標の達成状況に関する所見 |
| 目標は全体的に着実に達成されているといえる。 年度目標1～3に掲げた各種監査について、計画的に実施し、完了したことは評価できる。預り金・プール金問題から設置された検収センターの監査については、社会的関心が高く、今後適正な監査がなされることを期待したい。 |
| 2014年度目標に関する所見 |
| 2013年度の目標達成状況を受けて、全体として適切に目標が設定されている。 年度目標3の「EMS研修講座に係る内部監査についても精度を高め、充実させる」とあるが、2013年度末報告に「閉講が決まり今回が最終となるEMS研修講座に関する監査」と記載されており、目標から除外するべきである。 |
| 認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見 |
| 該当なし |
| 総評 |
| 法令順守の見地から、監査室の役割は非常に重要で、適切な目標設定に基づき効率的・計画的に運営していく継続的な努力がなされていることが大いに評価できる。 監査室では内部監査の際に指摘した事項について改善実施報告書の提出を求めているが、指摘事項のうち他部局等で今後の運営上参考になる情報をとりまとめて、積極的な情報発信をすることが期待される。 |